

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	堀内
科目名	情報リテラシー1	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	演習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定3級」および「文書デザイン検定3級」以上の検定合格を目標とする		
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。7月および10月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング		
第2週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習		
第3週	ワープロ検定準2級程度の問題解法 個別問題演習		
第4週	ワープロ検定2級程度の問題解法 個別問題演習		
第5週	ワープロ検定準1級程度の問題解法 個別問題演習		
第6週	ワープロ検定1級程度の問題解法 個別問題演習		
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第8週	中間試験 ワープロ検定準2級程度の問題		
第9週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第11週	ワープロ検定問題演習 級別ワープロ検定模擬テスト		
第12週	問題演習およびワープロ検定		
第13週	文書デザイン検定3級および3級程度の問題解法 個別問題演習		
第14週	文書デザイン検定3級および2級程度の問題解法 個別問題演習		
第15週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習		
第16週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 個別問題演習		
第17週	期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題		

<p>3. 履修上の注意</p> <p>授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)</p> <p>欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>マイクロソフトWord</p> <p>授業配布プリント</p> <p>検定過去問題のプリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:</p> <p>絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注</p>
<p>6. その他</p> <p>※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある</p>

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	小林千尋
科目名	キャリアプランニング1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。		
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」		
第2週	ライフライン分析とキャリアパス		
第3週	「職業興味と職業適性」		
第4週	履歴書作成① 履歴書とは、履歴書左側を記入・作成		
第5週	履歴書作成② 履歴書右側を記入・作成「ジョハリの窓」		
第6週	履歴書作成③「エゴグラム」自己PR作成		
第7週	履歴書作成④「能力と適性」自己PR作成		
第8週	履歴書作成⑤「良いところさがし」自己PR作成		
第9週	中間テスト 模擬履歴書の作成		
第10週	企業研究①こんな仕事をしてみたい、雇用条件は		
第11週	企業研究②(求人票を使って)求められる人材とは		
第12週	履歴書作成⑥ 仮志望動機の作成		
第13週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成		
第14週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成		
第15週	一般教養とSPI		
第16週	一般教養とSPI		
第17週	期末テスト 履歴書の作成		
3. 履修上の注意			
筆記用具を持参			
4. 使用教材(テキスト等)			
プリント教材			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価OR相対評価			
絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容			
6. その他			

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物形態機能学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	前半では同時期に開講する実習の事前講義として、主要な臓器系統の構造とはたらきについて理解する。後半では呼吸・循環系と泌尿器系について基本事項を理解する。				
◆概要	動物形態機能学はからだの構造とはたらきを理解するもので、いわゆる解剖学と生理学にほぼ一致する。この学問は今後続く臨床科目その他のほとんどの科目の基礎となるものである。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	呼吸器系 概要				
第2週	泌尿器系 概要				
第3週	循環器系 概要				
第4週	消化器系 概要				
第5週	肝臓 概要				
第6週	骨格系 概要				
第7週	前半まとめ				
第8週	中間試験				
第9週	呼吸器1				
第10週	呼吸器2				
第11週	呼吸器3				
第12週	循環器1				
第13週	循環器2				
第14週	循環器3				
第15週	泌尿器1				
第16週	泌尿器2				
第17週	試験				
3. 履修上の注意					
前半は同時期開講の実習に対する事前講義なのでよくメモを取るようにすること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
教科書1巻および配信資料					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 中間試験成績を参考としながら期末試験成績をもって最終評価とする。					
6. その他					
講師：現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科（動物看護師養成学科）及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。					

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	動物看護学概論	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	動物看護の基本となる概念と愛玩動物看護の提供体制について理解する。また、獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理・国家資格化までの軌跡について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
◆概要	愛玩動物看護師の資格制度や職域、職務範囲等、職業としての理解と、獣医療の歴史や倫理綱領を通し愛玩動物看護師の職業倫理を学ぶことで、専門職としてどうあるべきかについて考える。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	動物看護の基本概念		
第2週	動物看護の基本概念		
第3週	動物看護の基本概念		
第4週	動物看護者の倫理綱領 (獣医療倫理)		
第5週	動物看護者の倫理綱領		
第6週	動物看護者の倫理綱領		
第7週	動物にとっての健康・福祉・QOL		
第8週	中間試験		
第9週	愛玩動物看護師の職域・職務範囲 役割		
第10週	愛玩動物看護師の職域・職務範囲 役割		
第11週	動物看護の提供体制 一次診療、二次診療、救急獣医療の役割		
第12週	動物看護の提供体制 インフォームドコンセント、セカンドオピニオンについて		
第13週	職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法		
第14週	愛玩動物看護師の社会的立場(職能団体について)		
第15週	愛玩動物看護師の社会的立場(資格・組織団体について)		
第16週	愛玩動物看護師の社会的立場(資格・組織団体について)		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
動物看護の基本(土台)となるため、事後学習をきちんと行うこと。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(緑書房3巻) 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価 出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%			
6. その他			
愛玩動物看護師になるにあたって学び得た知識と、日本動物看護職協会の倫理綱領をもとに、実務経験も踏まえた職業倫理や社会的責任等について説く。			

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	福澤 美雪
科目名	動物感染症学1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	<p>伴侶動物のイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。</p> <p>感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病現地についての理解が必要である。感染の成り立ちについての理解が必要である。動物感染症学1では、感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物(細菌・真菌・ウイルス等)について性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。</p>		
◆概要	<p>微生物(細菌・ウイルス・真菌・リケッチア・クラミジア等)の分類、生物学的特性、伝播様式や発祥のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。</p>		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	感染症とは	いろいろなウイルスや細菌	世界で恐れられる感染症
第2週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性	
第3週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性	
第4週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性	
第5週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性	
第6週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性	
第7週	微生物の分類と特徴	ウイルスの分類、形態、増殖、病原性	
第8週	微生物の分類と特徴	ウイルスの分類、形態、増殖、病原性	
第9週	微生物の分類と特徴	ウイルスの分類、形態、増殖、病原性	
第10週	微生物の分類と特徴	真菌の分類、形態、増殖、病原性	
第11週	微生物の分類と特徴	真菌の分類、形態、増殖、病原性	
第12週	微生物の分類と特徴	リケッチア	クラミジア
第13週	微生物の分類と特徴	プリオン	
第14週	宿主の感染防御機構		
第15週	微生物検査	ウイルス検査	
第16週	まとめ		
第17週	最終確認試験		
3. 履修上の注意			
<p>事後学習として授業の復習を必ず行う</p> <p>授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる</p> <p>グループでテーマ検討・発表をする場合もある</p> <p>事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある</p> <p>課題は提出期限を守ること</p>			
4. 使用教材(テキスト等)			
<p>愛玩動物看護師の教科書第3巻</p> <p>補助プリント</p>			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が知っておかねばならない微生物やウイルスの特徴とその病原性、宿主の免疫機構などについて指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	得地
科目名	動物感染症学2	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	主に犬猫に感染する寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状及び診断方法と有効な駆虫薬について学習し、それらの知識を予防と看護に活かすと共に、飼い主に対して寄生虫予防の大切さを伝えられるようになる。		
◆概要	寄生虫の分類、その形態・病原性を含む生物学的特性、生活環等について学び、寄生虫疾患の検査や診断、衛生管理、予防・治療法などの基礎を習得する。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	寄生虫学概要		
第2週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第3週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第4週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第5週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第6週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第7週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第8週	中間試験		
第9週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第10週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第11週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第12週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第13週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等		
第14週	寄生虫の基礎知識 検査と診断、予防対策と制御		
第15週	寄生虫の基礎知識 検査と診断、予防対策と制御		
第16週	寄生虫の基礎知識 検査と診断、予防対策と制御		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
各寄生虫の違いや特徴を把握する必要があるため、必ず授業の復習を行う。 定期的に確認小テストを実施する。 授業以外に課題を課すことがあるが、その際の課題の提出は期限を厳守すること。			
4. 使用教材(テキスト等)			

愛玩動物看護師の教科書3巻(緑書房)
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数10%、試験点数70%、授業態度(積極性等)10%、課題提出状況等10%
をもって評価とする。

6. その他

動物病院勤務時における飼い主様への寄生虫感染予防の指導や院内での予防、駆虫対策の知識と経験を活かし授業を行う。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	得地	
科目名	動物看護・愛護・適正飼養関連法規		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各法律と愛玩動物看護師の関わりについて理解する。 法律を通して、人と動物の共生のために必要な配慮と行動を具体的に理解する。				
◆概要	動物や獣医療に関連するさまざまな法規について学ぶことで、社会における愛玩動物看護師の役割や人と動物の共生の在り方を理解する。 動物関連法規の関係する裁判での実際の判例等を紹介することで、法律を身近なものとして捉えられるようにする。 実在する法律について学ぶ前に、動物関連の法としてどのような決まりが必要だと思いかを考え、自ら学べる場を作る。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物関連法規オリエンテーション テキストの確認、学習内容の確認、法律の概要、法と愛玩動物看護師の関わり				
第2週	動物看護関連法規 法律概論(法の体系について、制定と改廃のしくみ)				
第3週	動物看護関連法規(愛玩動物看護師法) 目的、愛玩動物看護師の定義等(免許、試験、業務、罰則)				
第4週	動物看護関連法規(獣医療関連行政法規) 獣医師法概要、獣医療法概要				
第5週	動物看護関連法規(公衆衛生行政法規) 家畜伝染病予防法、感染症の予防及び感染症の患者に対する法律、狂犬病予防法				
第6週					
第7週					
第8週	前期中間試験				
第9週	動物看護関連法規(薬事行政法規) 薬機法、麻薬及び向精神薬取締法、毒物及び劇物取締法概要				
第10週	動物愛護・適正飼養関連法規(愛護・適正飼養関連行政法規) 動物の愛護及び管理に関する法律概要				
第11週					
第12週					
第13週	動物愛護・適正飼養関連法規 (愛護・適正飼養関連行政法規、社会福祉行政・環境衛生法規) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律、身体障害者補助犬法				
第14週	動物愛護・適正飼養関連法規(社会福祉行政・環境衛生法規) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律/化製場等に関する法律				
第15週	動物愛護・適正飼養関連法規(野生動物等に関する法律及び条約) 外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護管理法、ラムサール条約、 自然公園法、文化財保護法概要				
第16週					
第17週	前期期末試験				
3. 履修上の注意					
教科書と資料を併用して進める。 過去に起きた裁判の事例などを紹介することで興味を持たせる。 定期的に確認小テストを行う。					

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師の教科書2巻(緑書房)

補助プリント

愛玩動物飼養管理士2級教本・課題問題集

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出欠席数10%、試験点数70%、授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

動物病院勤務時における法律遵守の徹底や、飼い主様への説明・指導の経験を活かし授業を行う。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	得地
科目名	公衆衛生学1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	疫学、人獣共通感染症について学び、動物のみならず人の健康の維持・増進や疾病の応用について理解し、指導することで人と動物の健康な関係構築に寄与する。		
◆概要	動物や人を取り巻く環境及び疫学、各人獣共通感染症の危険性、感染経路、予防対策について人医療の観点からも学ぶ。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	公衆衛生概要 ・目的、公衆衛生行政 ・国民衛生の動向 ・One Healthと獣医療の関係 ・愛玩動物看護師と公衆衛生業務		
第2週			
第3週			
第4週			
第5週			
第6週	疫学と疾病予防 ・健康障害の発生要因 ・疫学研究方法		
第7週	・感染症対策 ・サーベイランス		
第8週	中間試験		
第9週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第10週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第11週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第12週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第13週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第14週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第15週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第16週	人獣共通感染症(症状、予防と対策について)		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
必ず授業の復習を行う。 定期的に確認小テストを実施する。 授業以外に課題を課すことがあるが、その際の課題の提出は期限を厳守すること。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師の教科書3巻(緑書房) 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			

評価基準:絶対評価

出欠席数10%、試験点数70%、授業態度(積極性等)10%、課題提出状況等10%
をもって評価とする。

6. その他

講師:公衆衛生の遵守を社会的役割として求められている動物病院での実務経験と、動物公衆衛生に
関して得た知識を活かし授業を行う。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	本橋
科目名	愛玩動物学 1	必修・選択(注)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	代表的な犬、猫の歴史と品種を知り、その活用について理解する。また、動物福祉をふまえた飼育管理法の習得、健康診断の内容、目的を理解することで、愛玩動物看護師が務める、動物の福祉及び健康保持・増進の援助が行える。また、愛玩動物飼養管理士2級の取得を目指す。		
◆概要	犬猫の品種や習性を理解した上で、日々の適切な飼育管理、安全な散歩・運動、基本的グルーミング、被毛の手入れ、口腔内衛生管理、健康診断の内容や目的等。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	犬の歴史と品種		
第2週	使役動物の歴史と福祉		
第3週	補助犬の歴史と現状、役割と育成、適正		
第4週	その他、使役犬について		
第5週	犬の適切な飼養管理方法		
第6週	飼養環境 体調管理 不妊去勢		
第7週	犬の基本的な取り扱い(散歩/運動/グルーミングなど)		
第8週			
第9週	中間試験		
第10週			
第11週	猫の歴史と品種、その活用		
第12週			
第13週	猫の適切な飼養管理方法		
第14週	飼養環境 体調管理 不妊去勢 など		
第15週			
第16週	血統と血統書		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
教科書だけではなくその他資料を使いながら行っていく グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと 課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること			
4. 使用教材(テキスト等)			
第6巻 愛護・適正飼養学 愛玩動物飼養管理士2級テキスト 予備資料			
5. 単位認定評価方法			
評価基準：絶対評価 ・出席状況 10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 20% ・中間・期末試験 70%			
6. その他			
講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく。			

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	福澤
科目名	動物行動学 I	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	前・後期
			前期
			○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。犬と猫の発生起源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導に活かす。また、正しいハンドリングに必要な学習理論を理解する。		
◆概要	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、獣医療に関わる者は、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持つ必要がある。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持に加えて、心理的な健康の大切さに注目している。『5つの自由』に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師が、動物医療の専門職として求められる。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	動物行動学基礎 行動学とは 行動学の歴史		
第2週	4つの問い(適応・進化・機構・発達)		
第3週	生得的行動・習得的行動		
第4週	脳による行動制御		
第5週	神経伝達物質		
第6週			
第7週	犬種、猫種による行動変化・行動特性		
第8週			
第9週	個体維持行動 社会維持行動 生殖行動		
第10週	ストレスサイン 5つのF		
第11週	犬・猫のコミュニケーション		
第12週			
第13週			
第14週	発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化		
第15週			
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる グループでテーマ検討・発表をする場合もある 事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師の教科書第2巻 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%			
・課題発表(中間・期末) 70%			

6. その他

講師:動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、主に犬猫の行動様式、行動の種類とその理由、犬猫の発達、行動学に基づいたトレーニングの必要性などについて指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	小山	
科目名	生命倫理・動物福祉		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶことで、動物に関わる際の福祉を重視した基礎的な概念を構築する。				
◆概要	生命倫理、動物愛護、動物福祉、動物の権利について、またその違いについて。動物福祉の基礎となる5R、3Rを理解するにあたり、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物等、日常に関わる愛玩動物以外の動物の福祉についても学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	生命倫理の概念				
第2週	生命倫理と獣医療の関わり				
第3週	動物福祉の定義と実際				
第4週	動物福祉の定義と実際				
第5週	動物愛護と動物福祉 : 世界と日本の始まりから近代への愛護運動の歴史と現代における動物愛護の思想と課題				
第6週	動物の福祉と動物の権利				
第7週	五つの自由について				
第8週	中間試験				
第9週	愛玩動物の福祉 : 国内外の動物保護の活動と実情				
第10週	動物福祉と社会: 日本における法律との関わり、現状や経済活動との関係性と実際について				
第11週	愛玩動物の福祉 : 適正飼養と福祉上の問題と対策				
第12週	災害時の動物福祉				
第13週	産業動物の福祉 5Rの原則				
第14週	実験動物の福祉 3Rの原則				
第15週	展示動物の福祉 環境エンリッチメント				
第16週	動物福祉の行動学的指標と生理学的指標 まとめ				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等) 愛玩動物看護師の教科書1巻					
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等10% をもって評価とする。					
6. その他					

動物病院における、来院動物、入院動物に対する福祉を実践してきた経験や震災後の動物保護シェルターでのボランティア活動等の経験を活かし、福祉や愛護、動物との共生について授業を行う

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	動物内科看護学1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	OPE室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、院内における愛玩動物看護師の役割について理解する。身体検査、採血、投薬、輸液、画像診断に必要な検査を理解するだけでなく、データの整理・管理する能力を身に付け、実践での活用を目指す。		
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	動物の健康保持・増進		
第2週	診療補助に必要な技術 診察室や衛生管理		
第3週			
第4週	診察補助に必要な技術 動物に対する適切な接し方 保定法		
第5週			
第6週			
第7週	診察補助に必要な技術 身体検査 アセスメント項目		
第8週			
第9週	中間試験		
第10週	診察補助に必要な技術 身体検査 アセスメント項目		
第11週			
第12週			
第13週	検査・処置に必要な技術 注射器の取り扱い及び管理の方法 バイアル アンプル		
第14週			
第15週	復習（各種検査に関して）		
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
<p>器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものがある為、教員間で指導方針を確認しあい授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。</p> <p>アクセサリ類は必ず外すこと。</p> <p>髪型・化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。</p> <p>挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。</p> <p>生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。</p>			

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(緑書房4巻)

動物看護実習テキスト

予備資料

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間、期末試験70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床現場で必要となる内科看護スキルについて実例も交え指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	本橋 得地
科目名	動物内科看護学実習 1	必修・選択(注)	必修
単位数	1単位	授業形態	実習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	衛生管理から、身体検査の手技などを含めた内科診療に必要な手技の習得を目指す。動物内科看護学で学んだ知識の実践力を身に着けるのみならず、身体検査から得た結果を取りまとめるなど院内における愛玩動物看護師としての立ち回り等の習得を目指す。		
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解し、実践力を習得する		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	実習の心得 動物の基本的な取り扱い 安全なハンドリング		
第2週	飼育環境整備 入院ケージ整備 消毒 トイレ等の管理		
第3週	診察室準備 衛生管理 アル綿		
第4週	診察準備 動物の抱き方 診察台での安全管理		
第5週	基本的な保定法		
第6週			
第7週	聴診法		
第8週	身体検査 全身状態 (意識レベル BCS 粘膜色 体表リンパ節 BW測定) 保定法		
第9週	中間試験		
第10週	身体検査 保定法 TPR CRT 脱水評価 フィジカルアセスメント		
第11週			
第12週			
第13週			
第14週			
第15週	注射器取扱い アンブル バイアル 注射法		
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>			
4. 使用教材(テキスト等)			
第4巻 動物臨床看護学 動物看護師実習テキスト 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			

評価方法: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
中間及び期末試験70%

6. その他

講師: 実例をもとに、現場をイメージした診察準備や入院ケージの準備を実践する。保定や身体検査など基本的な指導に加え、ありとあらゆるパターンがあることを想定し、説明したうえでできるだけ多くの技術を習得してもらうことを目指す。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物形態機能学実習		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	この実習を通じて主要な臓器の構造とはたらきを多角的に理解できるようにする。				
◆概要	動物形態機能学実習は、主な器官系統を対象として、原則として生臓器(肉眼観察)と対応する組織標本(顕微鏡観察)の学習を通じて、からだの作りとはたらきの関連を総合的に学習してもらうものである。実物に触れることでこれに続く座学の内容がより現実性を帯びるはずである。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	細胞と上皮				
第2週	呼吸器系				
第3週	泌尿器系				
第4週	循環器系				
第5週	消化器系				
第6週	肝臓				
第7週	骨格系				
第8週	まとめの講義ならびに最終試験 (期末試験として実施)				
3. 履修上の注意					
常に細かくメモを取る習慣を身につけること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
教科書1巻					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 実習の最終日に実施する試験を期末試験として成績評価する。					
6. その他					
講師：現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科（動物看護師養成学科）及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。					

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物形態機能学2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	前半では同時期に開講する実習の事前講義として、主要な臓器系統の構造とはたらきについて理解する。後半では呼吸・循環系と泌尿器系について基本事項を理解する。				
◆概要	動物形態機能学はからだの構造とはたらきを理解するもので、いわゆる解剖学と生理学にほぼ一致する。この学問は今後続く臨床科目その他のほとんどの科目の基礎となるものである。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	消化器系				
第2週	消化器系				
第3週	消化器系				
第4週	呼吸器系				
第5週	呼吸器系				
第6週	循環器系				
第7週	循環器系				
第8週	期末試験				
3. 履修上の注意					
前半は同時期開講の実習に対する事前講義なのでよくメモを取るようにすること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
教科書1巻および配信資料					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 中間試験成績を参考としながら期末試験成績をもって最終評価とする。					
6. その他					
講師：現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科（動物看護師養成学科）及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。					

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	堀内
科目名	情報リテラシー2	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	演習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	マイクロソフトEXCELでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定3級」以上の検定合格を目標とする		
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。2月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。なお、12月の検定は希望受験とする。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	検定問題対策 個別問題演習		
第2週	検定問題対策 個別問題演習		
第3週	検定問題対策 個別問題演習		
第4週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習		
第5週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習		
第6週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習		
第7週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習		
第8週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習		
第9週	中間試験 表計算検定準2級程度の問題		
第10週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習		
第11週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習		
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習		
第13週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習		
第14週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習		
第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習		
第17週	表計算検定 (期末試験兼ねる)		

3. 履修上の注意 課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する
4. 使用教材(テキスト等) マイクロソフトWord,Excelを使用 検定過去問題のプリント
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点
6. その他 ※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物形態機能学3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	細胞と組織、造血系、生体防御機構、神経と感覚器について理解する。これらはからだの恒常性維持をつかさどる細胞と組織システムに関する領域である。				
◆概要	動物形態機能学はからだの構造とはたらきを理解するもので、いわゆる解剖学と生理学にほぼ一致する。この学問は今後続く臨床科目その他のほとんどの科目の基礎となるものである。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	序論1				
第2週	序論2				
第3週	細胞と上皮、造血1				
第4週	細胞と上皮、造血2				
第5週	細胞と上皮、造血3				
第6週	生体防御1				
第7週	生体防御2				
第8週	生体防御3				
第9週	中間試験				
第10週	骨格1				
第11週	骨格2				
第12週	外皮1				
第13週	外皮2				
第14週	神経感覚器1				
第15週	神経感覚器2				
第16週	神経感覚器3				
第17週	試験				
3. 履修上の注意					
積極的にメモを取る習慣を身につける。					
4. 使用教材(テキスト等)					
教科書1巻および配信資料					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 中間試験成績を参考としながら期末試験成績をもって最終評価とする。					
6. その他					
講師：現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科（動物看護師養成学科）及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。					

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	感染症学3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	病原体の感染経路・伝播様式、感染症の成立要因について深く理解し、予防と看護に活かす。また、あらゆる消毒薬、滅菌法について学び、院内感染の予防や汚染対策につなげる。微生物学・寄生虫学・免疫学を基盤に、免疫学の基礎・応用として、ワクチンによって得られる免疫機能の変化、アレルギー反応についても理解し、適切な飼い主指導に役立てる。				
◆概要	動物感染症の感染経路・伝播様式、感染症成立要因について学び、衛生管理に必須である、予防対策を習得していく。また、ワクチンの原理と種類、接種プログラム、それに伴う体内での免疫機能の変化、アレルギー反応について理解する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	病原体の感染経路と伝播様式				
第2週	動物感染症の成立要因				
第3週	動物感染症				
第4週	消毒・滅菌法				
第5週	消毒・滅菌法				
第6週	消毒・滅菌法				
第7週	消毒・滅菌法 院内感染の予防対策				
第8週	中間試験				
第9週	免疫担当細胞と役割				
第10週	免疫学の基礎				
第11週	免疫学の基礎				
第12週	免疫学の応用				
第13週	免疫学の応用				
第14週	ワクチンについて 原理と種類				
第15週	ワクチンについて 原理と種類				
第16週	ワクチンについて 接種プログラムの理解				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行うこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(緑書房3巻) 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出欠席数 15% 試験点数70% 授業態度(積極性等)15%					
6. その他					

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が知っておくべき感染症成立の要因と予防について授業を行い、飼主指導をする上で、知っておくべきワクチン接種についても指導していく。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	得地	
科目名	公衆衛生学2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	環境及び食品衛生について学ぶことで人と動物の健康維持・増進や疾病予防への応用について理解し、飼い主への指導ができるようになる。				
◆概要	環境汚染がもたらす生物への影響の歴史についてを学習し、環境衛生の現在と人や動物への影響を十分に理解する。 また、食品衛生の観点から人と動物の健康と疾病の予防を学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	環境衛生概要 環境問題の種類				
第2週	環境衛生問題 水系問題				
第3週	環境衛生問題 生活環境問題				
第4週					
第5週	環境衛生問題 廃棄物問題				
第6週					
第7週	環境衛生問題 衛生動物関連				
第8週					
第9週	後期中間試験				
第10週	食品衛生概要 食品衛生法 等				
第11週	食品衛生問題 食中毒と動物性食品の加工・衛生管理について				
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	後期期末試験				
3. 履修上の注意					
環境・食品に関する衛生問題事例を紹介し、これらの問題に対して関心をもてるように授業を進める。					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師の教科書3巻(緑書房) 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					

・出欠席数10%、 試験点数70%、 授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

公衆衛生への配慮が求められる動物病院での実際の衛生管理・疾病予防の経験を活かし授業を進める。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	本橋
科目名	愛玩動物学2	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	近年増加しつつあるコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレットの他、愛玩鳥、爬虫類の生態や飼育方法を学び、その種本来の習性に則した飼育方法の習得を目指す。また、飼い主に対し、適切な飼養指導が行える知識を養い、実践で発揮できることを目標とする		
◆概要	伴侶動物の歴史、品種、飼育管理法、エキゾチック動物の生態について理解する。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	ウサギ		
第2週	生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法 代表的な疾患		
第3週	ハムスター		
第4週	生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法 代表的な疾患		
第5週	フェレット		
第6週	生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法 代表的な疾患		
第7週	モルモット		
第8週	生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、代表的な疾患		
第9週	中間試験		
第10週	チンチラ		
第11週	生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、代表的な疾患		
第12週	愛玩鳥の生態と習性、一般的な飼育方法		
第13週	インコ・オウム類とフィンチ類の違い 生理学的データ 代表的な疾患		
第14週			
第15週	爬虫類(カメ・トカゲ・ヘビ)		
第16週	生体と習性、一般的な飼育方法		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
愛玩動物飼養管理士2級で頻出されるエキゾチックアニマルの問題に 関連する範囲を中心的に行っていく。事後学習を怠らないよう心がけること			
4. 使用教材(テキスト等)			
第6巻 愛護・適正飼養学 愛玩動物飼養管理士2級テキスト 予備資料			
5. 単位認定評価方法			
評価基準：絶対評価 ・出席状況 10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 20% ・中間・期末試験 70%			
6. その他			

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	小山
科目名	動物栄養学1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	動物の健康管理において、また動物看護業務にとって重要な栄養学の知識を習得し、入院管理や飼い主指導に活かせるようにする。また、後期に開始する療法食についての学習を理解するにあたり重要な基礎知識をつける。		
◆概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学から始まり、動物の状態に適したフード、摂取カロリーの算出方法について理解し、栄養を通して健康管理について学ぶ。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	栄養学概要 与えてはいけないもの、中毒を起こす栄養素、ペットフード安全法		
第2週	栄養学概要 ペットフードの歴史、AAFCOの基準について		
第3週	5大栄養素総論		
第4週	5大栄養素の基礎 3大栄養素		
第5週	5大栄養素の基礎 3大栄養素		
第6週	5大栄養素の基礎 3大栄養素		
第7週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分		
第8週	中間試験		
第9週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分		
第10週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分		
第11週	エネルギー要求 エネルギー要求量の理解		
第12週	エネルギー要求 エネルギー要求量の理解と給与量の算出		
第13週	犬と猫の食性、嗜好性、必要栄養素のと種差による相違		
第14週	ライフステージに適した栄養要求と適したフードの選択		
第15週	フードに関する基礎知識(フードのラベル表示、種類、分類)と栄養指導の要点		
第16週	フードに関する基礎知識と栄養指導の要点: 栄養状態の評価 手作り食について		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
4. 使用教材(テキスト等) 愛玩動物看護師の教科書2巻			
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う			
6. その他 臨床現場における入院動物の栄養管理や飼い主様からの食事管理の相談など実務を通し得た知識や経験をもとに授業を行う			

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	福澤
科目名	動物行動学Ⅱ-1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	今までに習得した行動学の知識を基に、行動を作る学習理論と基本的なトレーニング法について理解する。また、犬猫で発現する主な問題行動における、問題行動の種類や治療法、トレーニング法について理解し、問題行動を予防するための環境エンリッチメントなど、適切な飼育管理法についてさらに理解する。		
◆概要	動物がどのように学習するのか、『学習の起こる仕組み』と『脳の特徴』について学ぶ。問題行動の種類と治療法、分離不安等に使用する薬剤、問題行動予防と行動の修正について学ぶ。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論		
第2週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論		
第3週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論		
第4週	基本的トレーニング法		
第5週	基本的トレーニング法		
第6週	基本的トレーニング法		
第7週	基本的トレーニング法		
第8週	中間試験		
第9週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)		
第10週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)		
第11週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)		
第12週	問題行動修正と予防 飼い主指導		
第13週	問題行動修正と予防 飼い主指導		
第14週	問題行動修正と予防 飼い主指導		
第15週	行動診療 コンサルテーション 薬物療法		
第16週	行動診療 コンサルテーション 薬物療法		
第17週	最終確認試験		
3. 履修上の注意			
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる グループでテーマ検討・発表をする場合もある 事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること			
4. 使用教材(テキスト等)			
動物看護コアテキスト2巻 愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%			
・課題発表(中間・期末) 70%			
6. その他			

講師:動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、行動を作る過程と学習の起こる仕組み、問題行動概論について指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	加藤 博史
科目名	動物臨床検査学 I	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目	
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	様々な臨床検査の原理や方法、意義について、安全かつ正確なデータの取得ができるように理解する。 動物看護における各種検査の内容を理解し、必要に応じて患者指導等を行うことができるようにする。		
◆概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	臨床検査の基礎について 顕微鏡の取り扱い		
第2週	検体検査とは 検体採取・処理方法 顕微鏡の取り扱い		
第3週	尿検査とは 尿の性状検査について 尿化学検査について		
第4週			
第5週	尿の性状検査について 尿沈渣の評価方法について(検鏡像と臨床の関連性を含む)		
第6週			
第7週			
第8週	中間試験		
第9週	尿の性状検査について 尿沈渣の評価方法について(検鏡像と臨床の関連性を含む)		
第10週			
第11週	糞便検査とは 糞便検査における採便法 虫卵・原虫の検出法、観察法について		
第12週			
第13週	糞便検査における採便法 細菌の観察法について		
第14週			
第15週			
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
4. 使用教材(テキスト等) 愛玩動物看護師の教科書4巻 配付資料			
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70%			

6. その他

講師:放射線技師(ヒト医療における)および動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物病院での臨床検査における動物看護師の役割と必要な知識・手技について指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	本橋 得地	
科目名	動物臨床検査学実習 I-1		必修・選択(注)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>検査の意義を理解し、一人で責任を持った検査結果を出せるよう、繰り返し実習を行う。常に検査結果を基準と比べ、速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。検査内容について説明できるよう習得する。検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得するようにする。</p>				
◆概要	尿検査、糞便検査の適切な検体の取り扱い及び手技の習得				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	検体検査とは 検体採取・処理方法 顕微鏡の取り扱い方法				
第2週					
第3週	尿検査とは 採尿方法・検体の処理 物理学性状検査 化学検査 遠心分離機の取り扱い方法				
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週	尿検査 顕微鏡学的検査				
第11週					
第12週	糞便検査とは 検体の採取・処理方法 物理学的性状検査				
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					

5. 単位認定評価方法

評価方法: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
中間及び期末試験70%

6. その他

動物病院での臨床検査の経験を活かし、各種検査の手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	本橋、得地		
科目名	動物内科看護学2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、院内における愛玩動物看護師の役割について理解する。輸血、画像診断に必要な検査を理解するだけでなく、その方法、モニタリングについて学び、同時にデータの整理・管理する能力を身に付け、実践での活用を目指す。				
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を身に付ける。また、より高度な検査方法に関する目的や原理について学び、それに伴った保定方法を含め理解していく。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	検査・処置に必要な技術				
第2週	採血の目的と方法				
第3週	検査・処置に必要な技術				
第4週	穿刺 各種カテーテル 酸素吸入				
第5週	輸液にかかわる技術とそのモニタリングについて				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	輸血に関わる技術と手技、モニタリングについて				
第11週	適応とリスク				
第12週	クロスマッチ試験 血液型				
第13週	マイクロチップについて				
第14週	挿入技術 目的の理解				
第15週	復習（各種検査技術について）				
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(緑書房4巻) 動物看護実習テキスト 予備資料					

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床現場で必要となる内科的看護スキルについて実例も交え指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	本橋 得地	
科目名	動物内科看護学実習2		必修・選択(注 記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	輸液及び輸血、カテーテルの挿入や使用において速やかな準備や、適切な手技の習得を目指す。また、輸液・輸血を実施中の動物に対しての管理や看護技術を身に着ける。マイクロチップや投薬においては手技はもちろん飼い主に対する説明などが的確に行えるようになること。				
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解し、実践力を習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	輸液に関わる技術 留置針設置 輸液ポンプ・シリンジポンプ 輸液中の動物の管理				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週	内服 外用薬 注射の手順 投薬の注意事項				
第6週					
第7週					
第8週	保定法(採血)				
第9週	中間試験				
第10週	保定法(採血)				
第11週	採血 クロスマッチ 輸血中の動物の管理				
第12週					
第13週	マイクロチップの挿入及びマイクロチップリーダーの使用方法				
第14週	各種カテーテルの使用法 穿刺 酸素吸入				
第15週					
第16週	復習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
第4巻 動物臨床看護学 動物看護師実習テキスト 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					

評価方法: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
中間及び期末試験70%

6. その他

講師: 病院勤務の経験を活かし、実際の入院動物の処置症例等を交えつつ授業を展開する。愛玩動物看護師の業務独占域に係るような内容に関しては、特に手技や知識の習得が確実にできるよう、より現場を意識した内容の授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	本橋、得地、山崎、北村		
科目名	グルーミング実習基礎_1	必修・選択	必修		
単位数	3単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	お手入れに関する知識と技術を学び、グルーミングの基本的な流れを理解し、犬が受け入れられる扱い方を身につける。 個体に応じて扱い方を適切に変化させる判断力と技術を身につける。				
◆概要	犬の皮膚トラブルの予防や治療のため、皮膚や被毛の構造を理解し適切なグルーミングを行う。安全にグルーミングを行うため、必要な道具の扱い方や犬の保定、ボディランゲージを知る。スムーズに作業を進められるよう、周囲とのコミュニケーション・連携を意識する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	【講義】グルーミング概要 お手入れの手順 犬の扱い 使用する道具について				
第2週	デモンストレーション 実習の流れ(準備～後片付け) 道具の使用方法				
第3週	グルーミング実習(2年生との合同実習)				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	グルーミング実習				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
3. 履修上の注意					
ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧が適切でない場合は出席を認めない。 挨拶、返事は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。 学校犬及び預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意して管理を行うこと。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					

愛玩動物看護師の教科書6巻(緑書房)
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数20%、授業態度(積極性、課題提出)40%、中間・期末試験40%

6. その他

講師:JKCTリマーおよびJAHALつけインストラクターとしての実務経験者

JAHA家庭犬しつけインストラクターおよびトリマーとしての経験から、グルーミングの流れと技術について、また行動学に基づいた「犬が受け入れられる扱い方」について指導する。

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院で看護師が診察台の上でも行うような、基本的なケア(爪切り・足裏バリカン・耳掃除・ブラッシング)の指導から、薬浴の効果や方法など、現場で行うことにより近づけた指導をする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	得地、小林		
科目名	動物看護総合実習 I_1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	診察室における獣医療補助行為や各種検査・処置・外科手術の補助を体験し、診療領域における愛玩動物看護師の業務を理解、習得する。 入院動物の看護を体験し、適切な状況判断力を養い動物に対し必要な配慮ができるようになる。 飼主とのコミュニケーションを体験することで、愛玩動物看護師として適切な言葉遣い				
◆概要	実際の動物診療施設を模して診療業務の参加を体験し、これまでの学びを統合する。診療施設の機能や業務内での連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を身につける。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	動物看護業務の理解 ・チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割				
第2週	・動物診療施設の設備や機能 ・愛玩動物の適正管理				
第3週	動物看護業務体験 ・診察室における獣医療補助行為 ・各種検査や処置、外科手術の補助 ・入院動物の看護 ・飼主とのコミュニケーション				
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
3. 履修上の注意					
ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧が適切でない場合は出席を認めない。 挨拶、返事は意識してきちんと行うこと。 必ず講師の指示に従い、器具器材の適切な取り扱いを行うこと。 生体を扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。 学校犬及び預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意して管理を行うこと。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと。					

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師の教科書6巻(緑書房)

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数20%、授業態度(積極性、課題提出)40%、中間・期末試験40%

6. その他

獣医師を講師として配置し、より実践に近い診療業務体験を実施する。

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

病院での勤務経験を活かし、診療業務や動物看護についてより実践的な指導を行う。

学科 ＜専攻＞	全学科		担当者	得地	
科目名	総合演習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科1	担当者	腰原		
科目名	比較動物学	必修・選択(注記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	比較動物学 様々な家畜の生態や疾病の基本を学び、日本の畜産業の現状を知る事を目標とする。				
◆概要	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業などの社会との関わりについて学ぶ。 実験動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。 産業動物における動物福祉について学ぶ。 統一認定試験の出題傾向に合わせた内容を学習する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	産業動物の基礎概論				
第2週	牛の歴史と品種、特徴				
第3週					
第4週					
第5週	馬の歴史と品種、特徴				
第6週					
第7週	豚の歴史と品種、特徴				
第8週	中間試験				
第9週	豚の歴史と品種、特徴				
第10週	羊・山羊の歴史と品種、特徴				
第11週					
第12週	鶏の歴史と品種、特徴				
第13週					
第14週	産業動物の疾病と繁生理				
第15週					
第16週	畜産業の現状と未来				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う事。					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 (EDUEARD Press) パワーポイント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：相対評価 出席状況、授業態度、中間・期末試験結果を総合して評価する					
6. その他					
講師：動物病院(小動物診療・大動物診療)における獣医師としての実務経験を活かし、産業動物の飼養管理と健康管理、予防医療を中心とした大動物診療について指導する。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	動物病理学		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	からだの作りや機能と、病気との関係を理解できるようにする。 病気の原因と疾病発現のメカニズムについて理解できるようにする。				
◆概要	病理学は病気の原理を学び、おもに細胞レベルでの疾病の原因や病気の起こり方、治癒の過程、衰弱や死について理解しようとするものである。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	病因論				
第2週	細胞傷害1				
第3週	細胞傷害2				
第4週	修復と再生1				
第5週	修復と再生2				
第6週	修復と再生3				
第7週	循環障害1				
第8週	中間試験				
第9週	循環障害2				
第10週	循環障害3				
第11週	炎症論1				
第12週	炎症論2				
第13週	炎症論3				
第14週	腫瘍論1				
第15週	腫瘍論2				
第16週	先天異常				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
この学問の基礎となるのは形態機能学(解剖学と生理学)であるので、常にそれらの復習をしながら学習するとよい。講義中は常にメモを取る習慣をつけること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
教科書および配信教材					
5. 単位認定評価方法					
絶対評価					
期末試験成績を基礎として中間試験および小テスト結果を参考とする。					
6. その他					
講師:現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科(動物看護師養成学科)及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	遠藤
科目名	動物臨床看護学各論 1	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	看護のための基礎知識として不可欠な各疾患の病態と治療や予防の選択肢について理解する。また、日常生活の中でも動物関連に限らず公衆衛生上の時事ニュースに注意を払うことができるようにする。		
◆概要	日々の診察の補助や飼い主へのわかりやすい説明の基盤となる疾患の知識(原因、症状、予防、治療、生活上の注意点)を身につける。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	脳神経疾患 脳の解剖学的構造の復習 神経検査		
第2週	脳神経疾患 神経検査について 代表的な神経疾患		
第3週	脳神経疾患 代表的な脳神経疾患 豆テスト		
第4週	筋骨格系疾患 筋肉の構造の復習		
第5週	主な筋骨格系疾患		
第6週	主な筋骨格系疾患 豆テスト		
第7週	内分泌疾患 内分泌器官の構造の復習		
第8週	主な内分泌疾患		
第9週	中間試験		
第10週	主な内分泌疾患		
第11週	消化器疾患 口腔と咽頭の疾患		
第12週	消化器疾患 食道と胃、小腸と大腸の疾患		
第13週	消化器疾患 肝臓、胆嚢、膵臓、その他疾患 豆テスト		
第14週	寄生虫疾患 検査方法 原虫感染症		
第15週	寄生虫疾患 線虫感染症		
第16週	寄生虫疾患 外部寄生虫疾患 豆テスト		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
教科書を読んでおくなど、あらかじめ十分な事前学習を行うことが望ましい。 講義時には忘れずに教科書を持参すること。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 相対評価 定期試験(中間・期末) 提出物 出席など総合的に評価する			
6. その他			
講師: 動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	小山	
科目名	動物栄養学2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々な疾患に対する療法食の特長や効果について理解し、説明できるようになる 食欲のない動物への配慮や工夫を自ら考察することができるようになる				
◆概要	療法食の基礎、各疾患における療法食の特長と効果を理解する、食欲低下時のフードの与え方、強制給餌の方法と注意点				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	療法食の基礎と取り扱い上の注意点、総合栄養食との相違点				
第2週	各疾患の療法食:心臓病				
第3週	各疾患の療法食:心臓病				
第4週	各疾患の療法食:腎臓病				
第5週	各疾患の療法食:腎臓病				
第6週	各疾患の療法食:皮膚疾患				
第7週	各疾患の療法食:皮膚疾患				
第8週	中間試験				
第9週	各疾患の療法食:糖尿病				
第10週	各疾患の療法食:関節疾患				
第11週	各疾患の療法食:肝臓病				
第12週	各疾患の療法食:消化器疾患				
第13週	強制給餌の方法と注意点、静脈栄養法				
第14週	肥満の弊害と減量プログラムの作成				
第15週	肥満の弊害と減量プログラムの作成、飼い主への指導のポイント				
第16週	まとめ				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 相対評価					
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う					
6. その他					
臨床現場における入院動物の栄養管理や飼い主様からの食事管理の相談など実務を通し得た知識や経験をもとに授業を行う					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	福澤
科目名	動物生活環境学	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	愛玩動物看護師として、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を習得する。動物の福祉を念頭に置き、動物の行動様式を理解したうえで適切な生活環境の設定ができるようになる。		
◆概要	家庭などにおける飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学ぶ。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	飼養環境整備	必要性や方法の理解	
第2週	飼養環境整備	ペット共生住宅について	
第3週	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン		
第4週	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン		
第5週	保護収容施設	動物シェルター、災害時避難施設について	
第6週	保護収容施設	動物愛護管理センターについて	
第7週	総復習		
第8週	中間試験		
第9週	ペットへの教育・訓練施設		
第10週	ペットへの教育・訓練施設		
第11週	動物介在教育施設		
第12週	ペット飼育マナー・事故やケガ等のリスクへの対応		
第13週	ペット飼育マナー・事故やケガ等のリスクへの対応		
第14週	ペット飼育マナー・事故やケガ等のリスクへの対応		
第15週	総復習		
第16週	総復習		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
事後学習を必ず行うこと。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10%			
6. その他			
動物看護師として動物に病院で勤務し、子犬・子猫などの幼齢動物の飼育管理、しつけ指導、高齢動物の飼養管理、リスク管理等について携わった経験を活かし、動物の習性をふまえた飼育環境整備等について指導する			

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	動物内科看護学3	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、院内における愛玩動物看護師の役割について理解する。皮膚・眼の検査に必要な技術・知識を理解するだけでなく、その方法、モニタリングについて学び、同時にデータの整理・管理する能力を身に付け、実践での活用を目指す。		
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を身に付ける。また、より高度な検査方法に関する目的や原理について学び、それに伴った保定方法を含め理解していく。		
2. 授業内容(週単位で記入)			
第1週	輸血に関わる技術 適応とリスク		
第2週	輸血計画(輸血製剤について) 輸血による副反応 モニタリング		
第3週	X線検査とCT/MRIに関わる技術		
第4週	X線検査の目的と意義 放射線防護		
第5週	実施方法 撮影体位		
第6週	CT/MRI概要		
第7週	皮膚と耳の検査に関わる技術		
第8週	皮膚病変の観察と記録方法 各種検査方法の理解		
第9週	中間試験		
第10週	眼科検査に関わる技術		
第11週	試験方法と意義について		
第12週	マイクロチップに関する技術		
第13週	内視鏡検査に関わる技術		
第14週	超音波検査に関わる技術		
第15週	神経学的検査に関わる技術 脊髄反応と脊髄反射について理解 検査・評価方法		
第16週	各種検査方法の復習		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
<p>器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。</p> <p>アクセサリ類は必ず外すこと。</p> <p>髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。</p> <p>挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。</p> <p>生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。</p>			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(エデュワードプレス7巻) 動物看護実習テキスト 予備資料			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床現場で必要となる内科的看護スキルについて実例も交え指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	上條 得地	
科目名	動物内科看護学実習 I -3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	衛生管理から、身体検査を含めた内科診療に必要な手技の習得を目指す。 動物内科看護学で学んだ知識の実践力を身に着けるのみならず、 生体検査の正しい手順を学び、そこから得た結果の取りまとめなど院内における愛玩動物看護師としての立ち回り等の習得を目指す。				
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、採血、輸液、輸血、生体検査、また、それに関する記録法などについて理解し、実践力を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	輸液・輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法				
第2週	保定法 輸血バック				
第3週	X線検査に関する技術				
第4週	X線撮影体位				
第5週	放射線防護の準備 暗室				
第6週	皮膚検査(搔爬試験・スタンプ検査・被毛検査)				
第7週	外耳道検査				
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	眼科検査(シルマー試験・フルオレセイン試験・眼底検査)				
第11週					
第12週	マイクロチップ挿入に関する技術				
第13週	採血・採尿 (尿カテーテル挿入)				
第14週	超音波検査に関する技術 (撮影体位)				
第15週	神経学的検査の所見の記録				
第16週	復習 (各検査方法)				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(エデュワードプレス7巻) 動物看護実習テキスト 予備資料					

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- ・中間・期末試験70%

6. その他

講師: 実例をもとに、現場をイメージした診察準備や入院ケージの準備を実践する。保定や身体検査など基本的な指導に加え、ありとあらゆるパターンがあることを想定し、説明したうえでできるだけ多くの技術を習得してもらうことを目指す。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	加藤	
科目名	動物臨床検査学Ⅱ-1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	検査の意義を理解し、正確なデータの記録や管理が行えるだけでなく、検査内容を理解し、獣医師への報告はもちろん、必要に応じて飼い主への説明が的確に行えるようにする				
◆概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	糞便検査(消化試験)				
第2週	糞便検査 直接法				
第3週	染色ドライ標本				
第4週	糞便検査 浮遊法				
第5週					
第6週	血液とは(血漿、血清)				
第7週	CBCについての理解(全血球計算とヘマトクリット管を用いた検査)				
第8週	中間試験				
第9週					
第10週	CBC(ヘマトクリット管を用いた検査について)				
第11週	血液塗抹の作成及び観察法				
第12週	染色法				
第13週	マイクロフィラリア検査				
第14週					
第15週	血液化学検査の目的と意義				
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物看護実習テキスト 補助資料					
5. 単位認定評価方法					
評価方法: 絶対評価 ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% 中間及び期末試験70%					
6. その他					

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	動物臨床検査学実習 I-2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	検査の意義を理解し、一人で責任を持った検査結果を出せるよう、繰り返し実習を行う。常に検査結果を基準と比べ、速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。検査内容について説明できるよう習得する。検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得するようにする。				
◆概要	糞便検査、血液検査の適切な検体の取り扱い及び手技の習得				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	糞便検査(消化試験)				
第2週	糞便検査 直接法				
第3週	染色ドライ標本				
第4週	糞便検査 浮遊法				
第5週	復習				
第6週	採血後の分注及び 血漿・血清の分離				
第7週	CBC(全血血球計算/ヘマトクリット管を用いた検査)				
第8週	中間試験				
第9週	CBC(全血血球計算/ヘマトクリット管を用いた検査)				
第10週	マイクロフィラリア検査				
第11週	血液塗抹標本の作製と染色法 血液塗抹標本の観察(百分比など)				
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物看護実習テキスト 補助資料					
5. 単位認定評価方法					

評価方法: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
中間及び期末試験70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	福澤
科目名	動物外科看護学 1	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	無菌的処置の重要性が理解できる。タオル・ドレープ類の準備、滅菌法、手術室の器具類の管理など、術前準備について理解し実践できる。 麻酔処置時における動物看護師の役割について理解できる。 術中補助および術後の管理、動物のモニタリングについて理解する。 疼痛管理、退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。 エマーゼンシーの原因、病態、動物看護師の役割について理解する。		
◆概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	動物外科看護技術総論	無菌的処置の重要性	滅菌・殺菌・消毒・洗浄
第2週	手術器具の準備と滅菌法		
第3週	代表的な手術の種類	手術時の動物のポジショニング	術野の消毒
第4週	手洗い、手術着・手袋の着用法		
第5週	麻酔学		
第6週	麻酔とは 麻酔の基本概念		
第7週	安全な麻酔とは		
第8週	麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割 術前検査		
第9週	中間試験		
第10週	麻酔リスク ASA分類 麻酔前投薬		
第11週	麻酔導入		
第12週	吸入麻酔薬	気管内挿管準備	導入時・覚醒時のリスク
第13週	術中補助 麻酔看視項目		
第14週	直接補助と間接補助		
第15週	手術器具		
第16週	歯科器具 縫合針と縫合糸		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリ類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。			
4. 使用教材(テキスト等)			

5. 単位認定評価方法

評価方法: 絶対評価

・出席状況 15% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 35%
中間及び期末試験 50%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、現場をイメージした手術設備や手術器具の準備を行えるよう指導する。麻酔やモニタリングも実際にモニターを見ながら状態の把握を行うなどして現場に近づけた環境で指導が行えるように努める。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	福澤 本橋		
科目名	動物外科看護学実習 1	必修・選択(注記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	周術期管理における動物看護師の役割の理解と知識・手技を習得する。				
◆概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	手術準備				
第2週	器具の準備、滅菌				
第3週	手術準備				
第4週	手術衣 タオル・ドレープ類の準備 滅菌				
第5週	手術に必要な機器、機械台の準備				
第6週	手術準備				
第7週	手洗い、手術衣や手袋の装着				
第8週	手術台への動物の固定、術野消毒				
第9週	中間試験				
第10週					
第11週	術中補助				
第12週	麻酔器 モニター機器の接続および術中監視				
第13週	麻酔記録の作成				
第14週					
第15週	術中補助				
第16週	直接補助と間接補助				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻 動物看護実習テキスト 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価方法: 絶対評価 ・出席状況 15% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 35% 中間及び期末試験 50%					
6. その他					

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、現場をイメージした手術設備や手術器具の準備を行えるよう指導する。麻酔やモニタリングも実際にモニターを見ながら状態の把握を行うなどして現場に近づけた環境で指導が行えるように努める。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	本橋、上條、得地、北村	
科目名	グルーミング実習応用		必修・選択	必修	
単位数	3単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	これまで学習してきた内容を活かし、個体に応じて扱い方を適切に変化させる判断力と技術を身につける。 動物の個性や状態をよく理解した上で、適切な管理を行える能力を身につける。				
◆概要	犬の皮膚トラブルの予防や治療のため、皮膚や被毛の構造を理解し適切なグルーミングを行う。安全にグルーミングを行うため、必要な道具の扱い方や犬の保定、ボディランゲージを知る。 スムーズに作業を進められるよう、周囲とのコミュニケーション・連携を意識する。 動物の負担を考慮し、安全かつ迅速なグルーミングを行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	グルーミング実習				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
3. 履修上の注意					
ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧が適切でない場合は出席を認めない。 挨拶、返事は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。 学校犬及び預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意して管理を行うこと。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと。					

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師の教科書6巻(緑書房)

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数20%、授業態度(積極性、課題提出)40%、中間・期末試験40%

6. その他

講師:JKCトリマーおよびJAHALつけインストラクターとしての実務経験者

JAHA家庭犬つけインストラクターおよびトリマーとしての経験から、グルーミングの流れと技術について、また行動学に基づいた「犬が受け入れられる扱い方」について指導する。

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院で看護師が診察台の上でも行うような、基本的なケア(爪切り・足裏バリカン・耳掃除・ブラッシング)の指導から、薬浴の効果や方法など、現場で行うことにより近づけた指導をする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	本橋
科目名	動物医療コミュニケーション I	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	実習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	言葉遣いと話し方・表情・立ち位置・立ち振る舞いなど、接客時の基本身につけコミュニケーション能力を上げるための基本的な接遇トレーニングができるようになる。 看護動物の安全・衛生に配慮した対応ができるよう、受付時のカウンターを挟んだ高頻度業務を実技で展開し、グループ運営、段取り、プレゼンテーションの意識を高め、スタッフコミュニケーションを想定した能力を身に付ける。		
◆概要	事前問診、入院動物の幼体説明、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	クライアントエデュケーション		
第2週	適正飼養及び健康管理のための必要な情報の提供		
第3週	動物と飼い主が良好な関係を構築する方法についての理解		
第4週	院内業務 受付業務(診療受付 電話対応 清算 トラブル対応) 物品購入や管理について理解する		
第5週	院内コミュニケーション		
第6週	飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセント		
第7週	獣医療面接のプロセス(導入 稟告 質問 傾聴 要約 確認 終結)		
第8週	チーム獣医療に関するコミュニケーション能力(報連相)		
第9週	中間試験		
第10週			
第11週			
第12週	病気の適切な予防法		
第13週	予防接種 フィラリア予防 ノミ・ダニ予防・歯科予防 避妊去勢手術の理解		
第14週			
第15週			
第16週	ペット保険のついて		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリ類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 報連相の徹底			
4. 使用教材(テキスト等)			
補助資料など			
5. 単位認定評価方法			
評価方法: 相対評価			
6. その他			
講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 実際に現場で起こりうる状況などを想定した接遇トレーニングを行う。また、問診の取り方のポイント(細かい情報の聞き出し方など)の指導を含め、現場に近い雰囲気で行えるよう取り組みをする。また、お預かりしている動物に対して迅速な身体検査や観察の方法など動物の取り扱い方も細かく指導を入れていく。			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	遠藤 本橋		
科目名	動物看護総合実習 I-1	必修・選択(注記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物看護業務を理解し、チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する。 また、処置に応じた準備や保定、各検査など現場での愛玩動物看護師の立ち振る舞いを習得する				
◆概要	診察補助や各種検査の実施 グルーミング実習で預かった動物の管理				
2. 授業内容(週単位で記入)					
第1週	動物看護業務の体験 診察室における獣医療補助行為 各種検査や処置 お預かりした動物に管理 飼い主対応				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。報連相の徹底 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助資料など					
5. 単位認定評価方法					
評価方法: 相対評価					
6. その他					
講師: 獣医師の指導の下で現場に近い形で実習を行っていく					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	梶ヶ谷	
科目名	比較動物学2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	日本の野生動物について実情を法律とともに理解する。野生動物と人間社会との間にある課題を理解する。傷病鳥獣救護の実体を理解する。展示動物について理解する。				
◆概要	比較動物学2では主として野生動物学ならびに展示動物学の内容を学習する。我が国の野生動物の生態学的基礎、野生動物を取り巻く状況、関連する法律、人間生活と野生動物との関わり、傷病鳥獣救護の構造と課題、動物園動物を中心とした展示動物の現状と課題などが学習の中心となる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	我が国の野生動物の生態学的基礎1				
第2週	我が国の野生動物の生態学的基礎2				
第3週	野生動物を取り巻く自然環境				
第4週	野生動物を取り巻く社会環境				
第5週	野生動物に関連する法律1				
第6週	野生動物に関連する法律2				
第7週	人間生活と野生動物との関わり				
第8週	GDおよび発表討議				
第9週	中間試験				
第10週	傷病鳥獣救護1 哺乳動物				
第11週	傷病鳥獣救護2 鳥類				
第12週	傷病鳥獣救護3 社会制度				
第13週	GDおよび発表討議				
第14週	展示動物の現状と課題1				
第15週	展示動物の現状と課題2				
第16週	GDおよび発表討議				
第17週	試験				
3. 履修上の注意					
要所要所で課題についてのグループディスカッション(GD)を行い、内容を発表してもらい、理解を深めてもらう予定であるので、その様子も評価の対象とすることに注意。					
4. 使用教材(テキスト等)					
教科書、配信資料					
5. 単位認定評価方法					
絶対評価					
成績評価は中間試験成績、GD発表を参考とし、期末試験の成績をもって評価する。					
6. その他					

講師：現職は日本獣医生命科学大学名誉教授。同大学獣医学部獣医保健看護学科（動物看護師養成学科）及び獣医学科において形態学系と病理学系、野生動物学系の教育実務を経験してきた。獣医師・獣医学博士。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	河野 敬	
科目名	動物薬理学 1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動物看護師の薬の取り扱いについて、法律、投薬法、投薬指導法などを理解する。 ・薬が効果を表す機序について理解する。 ・疾病の成り立ちと、薬品がその回復の促進に寄与することを学ぶ。 ・各臓器に作用する薬物について理解する 				
◆概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療に対する実際の使用法を学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物看護師による薬物の取り扱い 薬物の適切な管理方法を理解する。薬物の分類と法規を知り最適な管理方法を理解する。投薬量の計算ができる。				
第2週	動物看護師による薬物の取り扱い 各種投薬法を理解し、自宅での飼い主による投薬について指導できる。				
第3週	動物薬理学の基礎 獣医臨床における薬物治療の概念について。				
第4週	動物薬理学の基礎 薬理作用とその発現機構および生体内での動態を理解する。				
第5週	動物薬理学の基礎 薬物間の相互作用および副作用と中毒について理解する。				
第6週	神経系に作用する薬物 全身麻酔薬・局所麻酔薬について理解する。				
第7週	神経系に作用する薬物 痛みについて知識を持ち、鎮痛薬について理解する。運動神経系に作用する薬物について理解する。鎮静薬、抗けいれん薬について理解する。				
第8週	中間試験				
第9週	神経系に作用する薬物 問題行動の治療に用いられる薬について理解する。				
第10週	呼吸器系に作用する薬物 呼吸興奮薬について理解する。				
第11週	呼吸器系に作用する薬物 鎮咳薬について理解する。				
第12週	呼吸器系に作用する薬物 気管支拡張薬について理解する。				
第13週	循環器・泌尿器に作用する薬物 血管拡張薬(降圧薬)について理解する。				
第14週	循環器・泌尿器に作用する薬物 心不全治療薬(強心薬)について理解する。				
第15週	循環器・泌尿器に作用する薬物 抗不整脈薬について理解する。				

第16週	循環器・泌尿器に作用する薬物 利尿薬について理解する。
第17週	期末評価試験
3. 履修上の注意 事後学習として授業の復習を必ず行う事。	
4. 使用教材(テキスト等) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 パワーポイント	
5. 単位認定評価方法 評価基準 相対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70%	
6. その他 基礎的な学問としての薬理学に加え、臨床の現場での経験から得られた薬物を実際に使用する際の注意点など(臨床薬理学)までも含め指導したい。	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	本橋
科目名	動物繁殖学	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	犬猫の雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学び、正常な分娩の前兆、生理的変化と異常分娩における助産、新生子管理や、雌雄の生殖器の疾患への理解。また、適切な飼い主への繁殖における理解や管理について適切な指導が行える		
◆概要	繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生児管理、遺伝学の基礎知識を学び習得する		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	生殖器の形態と機能		
第2週	雌雄の生殖器(構造・機能・生理)		
第3週	主要な性ホルモン 名称及び役割と働き(産生部位・標的器官)		
第4週	性成熟と性周期 月齢・妊娠期間・排卵(自然排卵・交尾排卵) 雄犬の精液及び交尾姿勢		
第5週	性成熟と性周期 性周期と膣細胞スミアの関係性 顕微鏡による膣スミアの観察		
第6週	性成熟と性周期 発情徴候、排卵・受胎可能な交配時期		
第7週	妊娠と分娩 妊娠(着床・胎盤)・分娩(徴候・経過)・出産準備		
第8週	妊娠と分娩 性ホルモン濃度の推移(偽妊娠)・妊娠期の異常・助産		
第9週	中間試験		
第10週	妊娠と分娩 帝王切開と新生子の蘇生法		
第11週	新生子管理 母親がいる新生子の管理方法・母親がいない新生子の管理方法		
第12週	新生子管理 母親がいる新生子の管理方法・母親がいない新生子の管理方法		
第13週	犬猫の繁殖の人的支配 人工授精・発情誘起		
第14週	犬猫の繁殖の人的支配 日照時間の調整・雌性避妊(不妊手術・発情抑制)・雄性避妊(去勢手術)		
第15週	遺伝学の基礎と遺伝性疾患 遺伝様式(顕性、潜性、伴性遺伝)		
第16週	遺伝学の基礎と遺伝性疾患 遺伝疾患、発生異常について		

第17週	期末試験
3. 履修上の注意 教科書だけではなく、イラストや写真、その他資料を使いながら行っていく。 生殖器の構造をはじめとして覚えることが多数あるため事後学習を怠らないよう務める。 実習棟での授業もあるため指示があった場合きちんと準備をすること アクセサリー類は必ず外すこと 髪型や化粧等が適切ではない場合出席を認めない	
4. 使用教材(テキスト等) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 補助プリント	
5. 単位認定評価方法 評価方法: 絶対評価 ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% 中間及び期末試験70%	
6. その他 講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 教科書に載っていることだけではなく現場での経験を活かした授業を展開していく。 講義がメインとなるが、検査や助産など看護師も立ち会う場面での立ち振る舞いなども指導していく。	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	遠藤
科目名	動物臨床看護学各論 2	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	看護のための基礎知識として不可欠な各疾患の病態と治療や予防の選択肢について理解する。また、日常生活の中でも動物関連に限らず公衆衛生上の時事ニュースに注意を払うことができるようにする。		
◆概要	日々の診察の補助や飼い主へのわかりやすい説明の基盤となる疾患の知識(原因、症状、予防、治療、生活上の注意点)を身につける。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	循環器疾患 循環器の構造の復習 主な循環器疾患		
第2週	主な循環器疾患		
第3週	主な循環器疾患 豆テスト		
第4週	呼吸器疾患 主な呼吸器疾患		
第5週	主な呼吸器疾患		
第6週	主な呼吸器疾患 豆テスト		
第7週	泌尿器疾患 泌尿器器官の構造の復習 主な泌尿器疾患		
第8週	主な泌尿器疾患		
第9週	中間試験		
第10週	主な泌尿器疾患 豆テスト		
第11週	生殖器疾患 生殖器の構造の復習 主な生殖器疾患		
第12週	主な生殖器疾患		
第13週	主な生殖器疾患 豆テスト		
第14週	皮膚疾患 検査方法 主な皮膚疾患		
第15週	主な皮膚疾患		
第16週	主な皮膚疾患 豆テスト		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
教科書を読んでおくなど、あらかじめ十分な事前学習を行うことが望ましい。 講義時には忘れずに教科書を持参すること。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 相対評価 定期試験(中間・期末) 提出物 出席など総合的に評価する			
6. その他			

講師:動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條、得地
科目名	動物臨床看護学実習1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義・実習・研究
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	動物看護の基礎である看護過程を理解し、実践できる能力を習得する。 疼痛管理や褥瘡管理等、愛玩動物看護師業務における、入院動物の状態に応じた適切な管理と看護を習得する。		
◆概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識を活かし、現場での業務を想定した実践的な学習を行う。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	動物看護過程の実践 ・事例演習 ・生活環境が看護動物に及ぼす健康影響 ・入院、治療が看護動物と飼主に与える影響 ・看護上の問題点抽出、看護内容立案、看護計画、看護実践、看護記録の実践		
第2週			
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週	中間試験		
第10週	入院動物の管理・アセスメント ケージの清掃・管理		
第11週	疼痛評価		
第12週	・ペインスケールの活用 など		
第13週	給餌補助		
第14週	・栄養チューブの設置準備 ・流動食の調製		
第15週	褥瘡予防と動物の看護		
第16週	・体位変換 ・褥瘡管理		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。 アクセサリ類は必ず外し、実習に適した身だしなみで参加すること。 必ず講師の指示に従い、器具器材の適切な取り扱いを行うこと。 生体を扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8、9巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト 補助プリント			

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出席による評価 15%、授業態度(取り組み、課題提出) 35%、試験点数50%

6. その他

講師: 動物病院における動物看護師としての実務経験者

動物医療現場での経験を活かし、実際に看護した症例等を紹介しつつ授業を展開する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	小山
科目名	応用動物看護学 1	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標 ペット栄養管理士資格の取得を目標とする			
◆概要 ペット栄養管理士資格の取得を目指し、基礎栄養学、各疾患に適した栄養管理等の復習を兼ね、試験対策を行う。			
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	ペット栄養管理士試験対策		
第2週	ペット栄養管理士試験対策		
第3週	ペット栄養管理士試験対策		
第4週	ペット栄養管理士試験対策		
第5週	ペット栄養管理士試験対策		
第6週	ペット栄養管理士試験対策		
第7週	ペット栄養管理士試験対策		
第8週	ペット栄養管理士試験対策		
第9週	ペット栄養管理士試験対策		
第10週	ペット栄養管理士試験対策		
第11週	ペット栄養管理士試験対策		
第12週	ペット栄養管理士試験対策		
第13週	ペット栄養管理士試験対策		
第14週	ペット栄養管理士試験対策		
第15週	ペット栄養管理士試験対策		
第16週	ペット栄養管理士試験対策		
第17週	ペット栄養管理士試験対策		
3. 履修上の注意			
4. 使用教材(テキスト等) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 ペット栄養管理学テキストブック			
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う			
6. その他 ペット栄養管理士資格取得経験を活かし、試験対策を行う			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	動物内科看護学Ⅱ-1	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、院内における愛玩動物看護師の役割について理解する。各種検査法の手技・記録法をより理解する。同時にデータの整理・管理する能力を身に付け、実践での活用を目指す。		
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を身に付ける。また、より高度な検査方法に関する目的や原理について学び、それに伴った保定方法を含め理解していく。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	身体検査評価		
第2週	全身状態		
第3週	バイタルサイン評価		
第4週	診察補助		
第5週	保定法		
第6週	採血法		
第7週	採尿(尿カテーテル挿入に関する技術)		
第8週	輸液		
第9週	中間試験		
第10週	輸液		
第11週	輸液		
第12週	生体検査に関する技術		
第13週	皮膚検査 眼科検査 放射線検査 超音波検査		
第14週			
第15週	総復習		
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(エデュワードプレス7巻) 動物看護実習テキスト 予備資料			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価 ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70%			
6. その他			
講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床現場で必要となる内科的看護スキルについて事例も交え指導する。			

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	上條 得地	
科目名	動物内科看護学実習4		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	衛生管理から、身体検査などを含めた内科診療に必要な手技の習得を目指す。 動物内科看護学で学んだ知識の実践力と実習で身に付けた技術をより確実にする。 生体検査の正しい手順を学び、そこから得た結果の取りまとめなど院内における愛玩動物看護師としての立ち回り等の習得を目指す。				
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、採血、投薬、輸液、輸血、生体検査などについて理解し、実践力を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	身体検査評価				
第2週	全身状態				
第3週	バイタルサイン評価(聴診器)				
第4週	診察補助				
第5週	保定法				
第6週	採血法				
第7週	採尿(尿カテーテル挿入に関する技術)				
第8週	輸液・輸血に関する技術				
第9週	中間試験				
第10週	輸液・輸血に関する技術				
第11週	留置針設置 輸液・輸液ポンプ・シリンジポンプ				
第12週	生体検査に関する技術				
第13週	皮膚検査				
第14週	眼科検査				
第15週	放射線検査				
第16週	超音波検査				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(エデュワードプレス7巻) 動物看護実習テキスト 予備資料					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70%					
6. その他					

講師: 実例をもとに、現場をイメージした診察準備や入院ケージの準備を実践する。保定や身体検査など基本的な指導に加え、ありとあらゆるパターンがあることを想定し、説明したうえでできるだけ多くの技術を習得してもらうことを目指す。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	福澤
科目名	動物外科看護学2	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	無菌的処置の重要性が理解できる。タオル・ドレープ類の準備、滅菌法、手術室の器具類の管理など、術前準備について理解し実践できる。 麻酔処置時における動物看護師の役割について理解できる。 術中補助および術後の管理、動物のモニタリングについて理解する。 疼痛管理、退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。 エマージェンシーの原因、病態、動物看護師の役割について理解する。		
◆概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する		
2. 授業内容(週単位で記入)			
第1週	術後管理 麻酔覚醒と覚醒後の動物のモニタリング		
第2週			
第3週			
第4週	創傷管理 ドレーン 包帯法		
第5週			
第6週	褥瘡予防 退院時の注意点		
第7週			
第8週	エマージェンシー 原因と病態		
第9週	中間試験		
第10週	エマージェンシー 原因と病態		
第11週			
第12週			
第13週	BLS ALS		
第14週	CPR CPCR		
第15週			
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと</p>			
4. 使用教材(テキスト等)			
動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻 動物看護実習テキスト 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価方法: 総合評価 ・出席状況 15% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 35% 中間及び期末試験 50%			

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、現場をイメージした手術設備や手術器具の準備を行えるよう指導する。麻酔やモニタリングも実際にモニターを見ながら状態の把握を行うなどして現場に近づけた環境で指導が行えるように努める。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	福澤 上條	
科目名	動物外科看護学実習 2		必修・選択(注 記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	周術期管理における動物看護師の役割の理解と知識・手技を習得する。				
◆概要	術前の準備;看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解。術前器具・器材の取り扱いと管理・日頃の点検 術中の補助;麻酔下の看護動物のモニタリングと麻酔記録。正常と異常の状態の理解 術後の管理;術後の疼痛に関する評価・ペインスケール。看護動物の継続的な観察と看護の実践				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	術中麻酔に関する知識 麻酔モニタリング 生体モニター 麻酔記録 導入～覚醒				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週	術後管理				
第7週	衛生管理 創傷管理 包帯法				
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	衛生管理 創傷管理 包帯法				
第11週	救急救命法 エマージェンシーの原因・病態 BLS ALS				
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週	期末試験				
第17週					
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻 動物看護実習テキスト 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					

評価方法: 絶対評価

・出席状況 15% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 35%
中間及び期末試験 50%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、現場をイメージした手術設備や手術器具の準備を行えるよう指導する。麻酔やモニタリングも実際にモニターを見ながら状態の把握を行うなどして現場に近づけた環境で指導が行えるように努める。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	加藤	
科目名	動物臨床検査学Ⅱ-2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	検査の意義を理解し、正確なデータの記録や管理が行えるだけでなく、検査内容を理解し、獣医師への報告はもちろん、必要に応じて飼い主への説明が的確に行えるようにする				
◆概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	血液化学検査(各項目復習)				
第2週	凝固検査 止血機構のメカニズム 検査の実際				
第3週					
第4週	血ガス分析 定義と目的と方法				
第5週					
第6週	免疫学的検査(抗体検査)				
第7週	細胞診検査 手技と検体の処理保存				
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	病理組織検査 手技と検体の処理保存				
第11週					
第12週	遺伝子検査 遺伝子検体の取り扱い 遺伝様式 PCR法				
第13週					
第14週					
第15週	尿検査(復習)				
第16週	総復習				

第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物看護実習テキスト 補助資料</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価方法: 絶対評価 ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% 中間及び期末試験70%</p>	
6. その他	
<p>講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。</p>	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	検査の意義を理解し、一人で責任を持った検査結果を出せるよう、繰り返し実習を行う。常に検査結果を基準と比べ、速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。検査内容について説明できるよう習得する。検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。				
◆概要	血液検査の適切な手技 細胞診における準備と検体の処理				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	血液塗抹標本の作製と染色法				
第2週	血液塗抹標本の観察(百分比など)				
第3週	CBC総復習				
第4週					
第5週	血液化学検査の実施と評価				
第6週					
第7週					
第8週	凝固検査の実際と実施				
第9週	中間試験				
第10週	血液化学検査の実施と評価				
第11週					
第12週	細胞診と病理組織検査 準備 検体の処理				
第13週					
第14週	臨床検査学総復習				
第15週					
第16週	期末試験				
第17週					
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 動物看護実習テキスト 補助資料					
5. 単位認定評価方法					

評価方法: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
中間及び期末試験70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	北村	
科目名	トレーニング実習1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主との理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化と負の罰を用いたトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。 また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。				
◆概要	犬のトレーニング知識習得および実技を行う。 実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	しつけ学 犬の観察の必要性和重要性 問題行動とは 実習中の犬の管理方法 必要な用具				
第2週	より良い共同生活のために 犬の欲求を満たす 理想的な犬との関係 リーダー アルファ 上下関係 主従関係 親子関係				
第3週	犬のトレーニング法 強制法 陽性強化法 強化子				
第4週	犬具紹介 慣らし方 リードワーク(握り方・持ち方) 報酬の与え方				
第5週	人の”手”が持つ意味 イメージ マズルコントロール アルファロール スクラブ&シェイク ハンドフィーディング コング ほめ方				
第6週	トレーニング理論 古典的条件付け 声の使い方 クリッカー 遊びの重要性 遊ばせ方				
第7週	トレーニング理論 古典的条件付け 声の使い方 クリッカー 遊びの重要性 遊ばせ方				
第8週	トレーニング理論 オペラント 連続強化 誘導 グーの手についてくる マグネット おいで				
第9週	トレーニング理論 オペラント 連続強化 誘導 ターゲットタッチ おいで				
第10週	トレーニング理論 オペラント 部分強化 おすわり 誘導 ビジュアル・キュー(視符)				
第11週	トレーニング理論 オペラント 復習 おすわり ビジュアル・キュー(視符) つぎ込み				
第12週	トレーニング理論 オペラント 復習 おすわり バーバル・キュー(声符)				
第13週	しつけに必要な理論 馴化 鋭敏化 脱感作 般化… おすわり ふせ たて 様々な姿勢からの誘導				
第14週	しつけに必要な理論 馴化 鋭敏化 脱感作 般化… おすわり ふせ たて 様々な姿勢からの誘導				
第15週	犬のストレス	ボディランゲージ	カーミング・シグナル	転位行動	転嫁行動
	ふせ・たて	誘導⇒ビジュアル・キュー(視符)	⇒バーバル・キュー(声符)	部分強化	
第16週	犬のストレス	ボディランゲージ	カーミング・シグナル	転位行動	転嫁行動
	ふせ・たて	誘導⇒ビジュアル・キュー(視符)	⇒バーバル・キュー(声符)	部分強化	
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習のため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬及び預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト4巻

実習テキスト

補助資料

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%

・中間・期末試験 60%

6. その他

講師: JKCTリマールとして、またJAHA認定家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主とのより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	加藤		
科目名	動物リハビリテーション学実習	必修・選択(注記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	リハビリテーションの意義を理解し、正確なリハビリの提供および、関連するデータの記録や管理が行えるだけでなく、施術内容を理解し、獣医師への報告はもちろん、必要に応じて飼い主への説明が的確に行えるようにする。				
◆概要	動物リハビリテーションに必要な解剖、生理、生体機能の基礎知識および、リハビリテーションの原理や方法、意義について学び、徒手療法、運動療法や理学治療機器の正しい扱い方について理解する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物リハビリテーション概論				
第2週	リハビリテーションに関連する解剖基礎について				
第3週	リハビリテーションにおける骨格連携について				
第4週	前肢の構造とその働きについて				
第5週	後肢の構造とその働きについて				
第6週	創傷治癒の基本と運動器障害からの回復について				
第7週	廃用と不動化および再稼働に対する筋骨格組織の変化について				
第8週	中間試験				
第9週	病態の評価と身体計測方法について				
第10週	歩様検査とその評価について				
第11週	整形外科的検査とその評価について				
第12週	神経学的検査とその評価について				
第13週	理学療法概論、徒手療法①(徒手的マッサージ)				
第14週	徒手療法②(ストレッチ、ROM訓練)				
第15週	陸上・水中運動療法				
第16週	物理療法について				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。</p> <p>ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。</p> <p>アクセサリ類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。</p> <p>挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 動物看護実習テキスト 補助資料					
5. 単位認定評価方法					

評価方法:絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
中間及び期末試験70%

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での検査・リハビリテーションの経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	本橋		
科目名	動物総合看護実習 I-2	必修・選択(注記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室・学外	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物看護業務を理解し、チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する。また、処置に応じた準備や保定、各検査など現場での愛玩動物看護師の立ち振る舞いを習得する				
◆概要	診察補助や各種検査の実施 グルーミング実習で預かった動物の管理				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物看護業務の実践 診察室における診療の補助の実践 スタッフとの連携協同 動物看護計画の立案と実践 飼い主に対する適正飼養及び療養生活の指導の実践				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。報連相の徹底 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外し、髪型、化粧等の身だしなみが適正でない場合出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助資料など					
5. 単位認定評価方法					
評価方法: 相対評価					
6. その他					
講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験 実習受け入れの経験を活かし、実習に対する姿勢、実習態度、実習内容、成果報告等について指導する					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	本橋		
科目名	総合演習2	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行う				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	上條 紗泰雅	
科目名	キャリアプランニング2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)を行う。面接、電話対応などを、より実践的に行い、事故、就職に臨む。				
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義となる。実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	職業適性について				
第2週	企業研究 (企業・動物病院情報収集、雇用条件について)				
第3週					
第4週	履歴書作成 (志望動機・自己PRなど)				
第5週					
第6週	面接 電話対応				
第7週	一般教養				
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	企業研究 (企業・動物病院情報収集、雇用条件について)				
第11週					
第12週	履歴書作成 (志望動機・自己PRなど)				
第13週					
第14週	面接 電話対応				
第15週	一般教養				
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
筆記用具持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
出席状況 10% 授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 50% 中間・期末試験 40%					
6. その他					

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	河野 敬		
科目名	動物薬理学2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	疾病の成り立ちとその回復過程に寄与する薬物について学ぶ				
◆概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	消化器に作用する薬物	制吐剤について理解する。胃酸分泌抑制薬(制酸剤)、胃粘膜保護薬について理解する			
第2週	消化器に作用する薬物	消化管運動機能改善薬について理解する。			
第3週	消化器に作用する薬物	止瀉薬、瀉下薬について理解する。			
第4週	消化器に作用する薬物	肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する。消化酵素製剤(膵酵素製剤)について理解する。			
第5週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	代表的なオータコイドについて理解する。			
第6週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	糖尿病治療薬について理解する。			
第7週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	甲状腺ホルモン製剤について理解する。			
第8週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	ステロイドホルモン製剤について理解する。 中間試験			
第9週	血液・免疫系に作用する薬物	抗貧血薬について理解する。			
第10週	血液・免疫系に作用する薬物	血液凝固抑制薬および血液凝固促進薬(止血剤)について理解する。			
第11週	血液・免疫系に作用する薬物	ステロイド性抗炎症薬(SAID)および非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)について理解する。			
第12週	血液・免疫系に作用する薬物	免疫抑制薬について理解する。			
第13週	化学療法薬	抗菌薬について理解する。(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)			
第14週	化学療法薬	抗真菌薬について理解する。			
第15週	化学療法薬	駆虫薬について理解する。殺虫薬について理解する。			
第16週	化学療法薬	抗腫瘍薬について理解する。			
第17週	前期評価試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
テキスト、パワーポイント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 相対評価					
出席による評価		15%	授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)		15%
課題発表(中間・期末)		70%			
6. その他					

基礎的な学問としての薬理学に加え、臨床の現場での経験から得られた、薬物を実際に使用する際の注意点など(臨床薬理学)までも含め指導したい。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	遠藤	
科目名	動物臨床看護学各論 4		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	看護のために基礎知識として不可欠な各疾患の病態や治療、予防について理解する。				
◆概要	日々の診察の補助や飼い主への分かりやすい説明の基盤となる各疾患の知識(原因や症状、治療や予防、生活上の注意点)を身につける				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	筋骨格系疾患 筋肉の構造の復習 主な疾患の病態と治療				
第2週	主な整形外科疾患の病態と治療				
第3週	主な整形外科疾患の病態と治療とその看護 豆テスト				
第4週	消化器疾患 口腔と咽頭の疾患				
第5週	消化器疾患 食道と胃、小腸と大腸、肛門の疾患				
第6週	消化器疾患 肝臓、すい臓、腹腔の疾患 豆テスト				
第7週	泌尿器疾患 泌尿器の解剖の復習				
第8週	泌尿器疾患 泌尿器系の臨床検査				
第9週	中間試験				
第10週	主な泌尿器疾患と豆テスト				
第11週	繁殖、生殖器疾患 性成熟と交配、出産の看護				
第12週	主な生殖器疾患				
第13週	新生児疾患と豆テスト				
第14週	皮膚科疾患 皮膚科の問診と検査				
第15週	皮膚科疾患 皮膚科の検査				
第16週	主な皮膚疾患 豆テスト				
第17週	後期試験				
3. 履修上の注意					
教科書を読んでおくなど、十分な事前学習をすることが望ましい					
4. 使用教材(テキスト等)					
テキスト: 動物看護コアテキスト6巻					
5. 単位認定評価方法					
評価基準 相対評価 定期試験 (中間、期末試験) と提出物、出席などの総合的に評価する					
6. その他					

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	上條 紗泰雅	
科目名	動物臨床看護学総論		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個性性を重視した動物看護過程の基本的な考え方を習得することで、実際のチーム医療である動物看護業務に活用ができる。また、エビデンスの作成を可能にすることで、動物看護業界の質保証に貢献出来るようになる。				
◆概要	動物看護過程の重要性、概要、展開、チーム医療における役割、動物看護記録作成の手順について学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	動物看護過程 目的・意義・方法の理解				
第2週	動物看護過程 各ステップにおける理解				
第3週	動物看護記録作成（事例検討）				
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週	動物看護業務 自己管理・防止について				
第9週	中間試験				
第10週	動物看護業務 若齢動物看護の特徴				
第11週					
第12週	動物看護業務 高齢動物看護の特徴				
第13週					
第14週	死の看取りにかかわる技術 ターミナルケアの目的と意義 QOL・ホスピス・緩和ケア・エンゼルケア グリーフケア				
第15週					
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
教科書だけではなくその他資料を使いながら行う。 グループでは積極的に動くこと。事後学習を行い、課題等の提出は期限を厳守すること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護コアテキスト5巻 動物看護技術トレーニングブック 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席状況 10% 授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 40% 中間・期末試験 50%					
6. その他					

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	外科動物看護実習3	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	実習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	周術期管理における動物看護師の役割の理解と知識・手技、術後管理として、創傷管理(カラー装着、ネット)、動物への包帯法を習得する。また、事例別に応急処置・救急処置を学び、様々な病態の看護を可能とする。		
◆概要	術前の準備;看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解。術前器具・器材の取り扱いと管理・日頃の点検 術後の管理;看護動物の継続的な観察と看護の実践をするとともに、術後の創傷管理法を理解する。 救急救命:必要な機材・薬剤の準備		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	犬と猫の応急処置・救急処置 FA(First Aid) 事例別に検討		
第2週			
第3週			
第4週			
第5週	術後管理		
第6週	創傷管理 (ネット、カラー装着など) 包帯法		
第7週	創傷管理 包帯法		
第8週			
第9週	中間試験		
第10週	救急救命 必要な機材・薬剤の準備		
第11週			
第12週			
第13週	術中準備・補助		
第14週	手術器具の準備		
第15週	歯科器具の取り扱い、歯科処置の補助		
第16週	術後管理 抜糸の補助		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員に指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>			
4. 使用教材(テキスト等)			
動物看護コアテキスト6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準:絶対評価 出席状況 10% 授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 30% 中間・期末試験 60%			

6. その他

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、麻酔や術中モニタリングについて指導する。また、救急救命時における動物看護師の役割についても現場に近づけた環境で指導が行えるように努める。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	小山	
科目名	動物人間関係学		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学のおよび社会学的側面から理解する。				
◆概要	人間と動物の関わり、日本と欧米の動物の関わりとの相違、その背景や現状。使役動物の歴史と福祉。伴侶動物の現状と関わりや相互の影響について。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	人間と動物の関わり 動物への関心の根拠と動物観 なぜ人はペットを飼うのか				
第2週	文学・芸術における動物との関係の歴史と日本人の動物観				
第3週	動物観の歴史の変化と比較による 欧米と日本での動物の関わりとの相違				
第4週	現代の人と動物の関わり 動物の飼育と利用の現状 人の生活に貢献する動物の役割				
第5週	動物介在介入: AAI 動物介在活動				
第6週	動物介在介入: AAI 動物介在療法				
第7週	動物介在介入: AAI 動物介在療法				
第8週	中間試験				
第9週	動物介在介入: AAI 動物介在教育				
第10週	動物介在介入: AAI 動物介在教育 学校飼育動物の目的や実際、愛玩動物看護師の関わり				
第11週	使役動物の歴史と福祉について				
第12週	ペットへの愛着と依存				
第13週	人のライフサイクルにおける動物の関わりに関する役割 子供や高齢者に与える恩恵				
第14週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的效果・生理的、身体的効果、社会的効果				
第15週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的效果・生理的、身体的効果、社会的効果				
第16週	まとめ				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト1巻					
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う					

6. その他

動物看護師としての経験および介在活動を行った経験を活かし、動物が人に与える効果と影響、愛玩動物看護師が貢献すべき社会的役割について教える。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物応用看護学 1 (動物生活環境学)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	愛玩動物看護師として、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を習得する。動物の福祉を念頭に置き、動物の行動様式を理解したうえで適切な生活環境の設定ができるようになる。				
◆概要	家庭などにおける飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	飼養環境整備 必要性や方法の理解				
第2週	飼養環境整備 ペット共生住宅について				
第3週	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン				
第4週	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン				
第5週	保護収容施設 動物シェルター、災害時避難施設について				
第6週	保護収容施設 動物愛護管理センターについて				
第7週	総復習				
第8週	中間試験				
第9週	ペットへの教育・訓練施設				
第10週	ペットへの教育・訓練施設				
第11週	動物介在教育施設				
第12週	ペット飼育マナー・事故やケガ等のリスクへの対応				
第13週	ペット飼育マナー・事故やケガ等のリスクへの対応				
第14週	ペット飼育マナー・事故やケガ等のリスクへの対応				
第15週	総復習				
第16週	総復習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意 事後学習を必ず行うこと。					
4. 使用教材(テキスト等) 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					

評価基準:絶対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10%

6. その他

動物看護師として動物に病院で勤務し、子犬・子猫などの幼齢動物の飼育管理、しつけ指導、高齢動物の飼養管理、リスク管理等について携わった経験を活かし、動物の習性をふまえた飼育環境整備等について指導する

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	得地
科目名	動物応用看護学2 (ペット関連産業概論)	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	ペット関連産業に携わることの責任と社会的役割を学び、関連法を理解する。 ペット関連産業の市場規模や現状を知ること、今後の課題と果たすべき役割を理解する。 動物取扱業制度の概要を学び、動物取扱責任者に必要な知識や手法を理解する。		
◆概要	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	ペット関連産業における職業倫理 ・責任と社会的役割 ・商取引関連法規 ・動物愛護管理法の意義と実施方法		
第2週			
第3週			
第4週			
第5週	ペットの飼養実態と市場規模 ・ペット関連産業の概要 ・飼養実態と市場規模		
第6週			
第7週			
第8週	中間試験		
第9週	各ペット関連産業の現状と課題 ・ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状 ・今後の課題		
第10週			
第11週			
第12週			
第13週	動物取扱業 ・動物取扱制度概要 ・動物取扱責任者に必要な実践的知識 ・動物の取り扱い方法、衛生管理の手法		
第14週			
第15週			
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
教科書と資料を併用して進める。 実際の事例などを紹介することで、関連産業の現状について関心を持たせる。			
4. 使用教材(テキスト等)			
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻(エデュワードプレス) 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			

評価基準:絶対評価

出欠席数 10%、試験点数 70%、授業への取り組み(授業態度、課題提出) 20%
をもって評価とする。

6. その他

動物病院で勤務した経験を活かし、体験談を織り交ぜつつ遵守すべき職業倫理・行動倫理を説明する。
実際の状況を紹介するなどして、今後のペット業界の課題と展望に関心を持てるような授業を展開する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條 紗泰雅
科目名	動物応用看護学3(指定講習会)	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	愛玩動物看護師国家試験受験資格を得るため、指定講習会修了証明書を獲得する。		
◆概要	5科目(愛玩動物看護師の職責、獣医療及び愛護適正飼養分野の関連法規、診療の補助に関する技能、愛護・適正飼養に関する基本的な知識、業務の実践)、計26時間の講習を受けることにより、愛玩動物看護師の業務についてより理解を深め、国家試験に臨む。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	指定講習会	受講	
第2週	指定講習会	受講	
第3週	指定講習会	受講	
第4週	指定講習会	受講	
第5週	指定講習会	受講	
第6週	指定講習会	受講	
第7週	指定講習会	受講	
第8週	指定講習会	受講	
第9週	指定講習会	受講	
第10週	指定講習会	受講	
第11週	指定講習会	受講	
第12週	指定講習会	受講	
第13週	指定講習会	受講	
第14週	指定講習会	受講	
第15週	指定講習会	受講	
第16週	指定講習会	受講	
第17週	指定講習会	受講	
3. 履修上の注意			
PCの持参をすること。 資格試験に向け、徹底した事後学習を必ず行うこと。			
4. 使用教材(テキスト等)			
PC、イヤホン 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準：絶対評価 出席状況 10% 授業態度(課題の提出) 40% 授業態度(取り組み) 40% 中間・期末試			
6. その他			

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	小山		
科目名	動物適正飼養学1 (適正飼養指導論)	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物看護師として、適正飼養の理解にとどまらず、飼い主さんへの指導や終末期のケア、災害時の関わり等を学ぶことで、愛玩動物看護師としての総合的な役割、社会的な役割を学ぶことで実践につなげる				
◆概要	愛玩動物看護師として、獣医療行為のみに限らず適正な飼養の指導から終末期におけるケア、また災害等の非常時における役割など総合的な関わりについて学ぶ				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	愛玩動物の飼養 適正飼養とは				
第2週	愛玩動物の飼養 愛玩動物飼養の現状				
第3週	愛玩動物の飼養 愛玩動物によって人間が受ける影響と問題点				
第4週	適正飼養の推進 適正飼養に関する支援の目的と活動				
第5週	適正飼養の推進 動物取扱業者における適正飼養				
第6週	適正飼養の推進 愛玩動物の過剰繁殖の問題				
第7週	愛玩動物の飼養についてまとめ				
第8週	中間試験				
第9週	動物終末期ケア 終末期ケア総論				
第10週	動物終末期ケア 終末期ケア総論				
第11週	動物終末期ケア 終末期ケア総論 飼い主に関するケアと対応				
第12週	動物終末期ケア 動物医療グリーンケア				
第13週	動物終末期ケア 動物医療グリーンケア				
第14週	動物終末期ケア ペットロス				
第15週	動物終末期ケア ペットロス				
第16週	適正飼養指導論まとめ				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻					

5. 単位認定評価方法

評価基準: 相対評価

出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う

6. その他

動物看護師としての経験を活かし、動物の終末期ケアと飼い主に対するケア・対応、ペットロスについて指導する。また、動物取扱業者としての適正飼養や、人の心理と密接に関わる多頭飼育・過剰繁殖などの問題について指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	北村	
科目名	愛玩動物看護師業務1 (動物愛護・適正飼養実習)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主との理想的な関係構築のため、学習理論に基づいた安全で受け入れやすい方法を理解し、基本的動作のトレーニングを実行できるようになる。 また、人間社会における犬を取り巻く環境に対し、適切な飼養環境、必要な道具と扱い方、基本的なしつけ方法等、説明やアドバイスができるようになる。				
◆概要	犬の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	犬とのコミュニケーション 犬との共通言語 基本的な動作 誘導 ビジュアル・キュー(視符) バーバル・キュー(声符)				
第2週	犬とのコミュニケーション 犬との共通言語 基本的な動作 誘導 ビジュアル・キュー(視符) バーバル・キュー(声符)				
第3週	犬とのコミュニケーション 犬との共通言語 基本的な動作 誘導 ビジュアル・キュー(視符) バーバル・キュー(声符)				
第4週	犬とのコミュニケーション 犬との共通言語 基本的な動作 誘導 ビジュアル・キュー(視符) バーバル・キュー(声符)				
第5週	犬とのコミュニケーション 犬との共通言語 基本的な動作 お散歩と運動 適切な道具				
第6週	犬とのコミュニケーション 犬との共通言語 基本的な動作 お散歩と運動 適切な道具				
第7週	犬とのコミュニケーション エネルギー発散と欲求を満たす 適切な玩具				
第8週	犬とのコミュニケーション エネルギー発散と欲求を満たす 適切な玩具				
第9週	パピー・トレーニング 吠え予防 トイレ・トレーニング 甘噛み予防 クレート・トレーニング 様々な物音に慣らす				
第10週	パピー・トレーニング 吠え予防 トイレ・トレーニング 甘噛み予防 クレート・トレーニング 様々な物音に慣らす				
第11週	パピー・トレーニング 吠え予防 トイレ・トレーニング 甘噛み予防 クレート・トレーニング 様々な物音に慣らす				
第12週	ハズバンドラリー・トレーニング 犬のストレス反応(ボディランゲージ・カーミング・シグナル) 体を触れることを受け入れられる、グルーミング道具、エリザベスカラー、口輪など				
第13週	ハズバンドラリー・トレーニング 犬のストレス反応(ボディランゲージ・カーミング・シグナル) 体を触れることを受け入れられる、グルーミング道具、エリザベスカラー、口輪など				

第14週	ハズバンドラリー・トレーニング 犬のストレス反応(ボディランゲージ・カーミング・シグナル) 体を触れることを受入れられる、グルーミング道具、エリザベスカラー、口輪など
第15週	犬の問題行動への対応
第16週	犬の問題行動への対応
第17週	期末テスト
3. 履修上の注意	
<p>床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習のため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適切に扱うこと。</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
動物看護コアテキスト4 実習テキスト 補助資料	
5. 単位認定評価方法	
評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題提出・授業姿勢)30% ・中間・期末試験 60%	
講師:JKCTリマールとして、またJAHA認定家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主とのより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。	

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條 得地
科目名	動物形態機能学・動物臨床看護学実習3	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	実習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	動物看護の基礎である看護過程を理解し、実践できる能力を習得する。 疼痛管理や褥瘡管理等、愛玩動物看護師業務における、入院動物の状態に応じた適切な管理と看護を習得する。		
◆概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識を活かし、現場での業務を想定した実践的な学習を行う。		
2. 授業内容（週単位で記入）			
第1週	動物看護過程の実施(事例演習) 動物看護計画の作成 動物看護記録の作成		
第2週			
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週	中間試験		
第10週	入院動物の管理、アセスメント		
第11週	疼痛管理		
第12週			
第13週	栄養チューブ設置の準備 流動食の調製		
第14週			
第15週	褥瘡を持つ動物の看護		
第16週			
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。 アクセサリ類は必ず外し、実習に適した身だしなみで参加すること。 必ず講師の指示に従い、器具器材の適切な取り扱いを行うこと。 生体を扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。			
4. 使用教材(テキスト等)			
動物看護の基礎 5 動物看護実習テキスト 補助プリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価 出席による評価 15%、 授業態度(取り組み、課題提出) 35%、 試験点数50%			
6. その他			
講師: 動物病院における動物看護師としての実務経験者 動物医療現場での経験を活かし、実際に看護した症例等を紹介しつつ授業を展開する。			

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	動物看護総合実習Ⅱ-2	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	実習
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	学外
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を築く上で必要な技術や能力を習得する。 就職学年であることを意識し、必須の知識や技術を再確認、必要に応じ実践する。 これまでの学習を総合し、必要な場面で有効に活用する判断力と実践力を身につける。		
◆概要	動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や、獣医師・動物看護師との連携を理解する。 校内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	学外実習		
第2週	学外実習		
第3週	学外実習		
第4週	学外実習		
第5週	学外実習		
第6週	学外実習		
第7週	学外実習		
第8週	学外実習		
第9週	学外実習		
第10週	学外実習		
第11週	学外実習		
第12週	学外実習		
第13週	学外実習		
第14週	学外実習		
第15週	学外実習		
第16週	学外実習		
第17週	学外実習		
3. 履修上の注意			
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 看護動物の状態・状況への配慮が必要。 常に動物の状態に注意し、管理する。 5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する。			
4. 使用教材(テキスト等)			
実習関連書類、動物看護実習テキスト その他			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題(報告書等)提出状況と学修成果50% 実習先からの評定書30%			
6. その他			

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験
実習受け入れの経験を活かし、実習に対する姿勢、実習態度、実習内容、成果報告等について指導する

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	動物応用看護学4	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	高齢動物の日常的な健康管理や、補助に必要な知識を学び、より実践的な技術を習得する、また、飼い主に対して、高齢管理のアドバイスをを行うことができる。 猫やエキゾチックアニマルの形態と機能を理解し、保定や診察・検査、入院管理に至るまで、各動物種における看護法を習得する。		
◆概要	高齢動物の健康管理から、かかりやすい病気や認知症について理解する。理解したうえで、適切なクライアントエデュケーションを提供する。 猫やエキゾチックアニマルの保定法から、診察・検査・入院管理を学び、実習で活かせる知識力・技術力を修得する。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	シニアケア		
第2週	シニアケア		
第3週	シニアケア		
第4週	シニアケア		
第5週	猫学 保定法と診察・検査		
第6週	猫学 保定法と診察・検査		
第7週	猫学 入院管理		
第8週	猫学 かかりやすい疾患について		
第9週	中間試験		
第10週	エキゾチックアニマル		
第11週	エキゾチックアニマル		
第12週	エキゾチックアニマル		
第13週	エキゾチックアニマル		
第14週	エキゾチックアニマル		
第15週	エキゾチックアニマル		
第16週	エキゾチックアニマル		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
実習を行う場合には、ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 看護動物の状態・状況への配慮が必要。 常に動物の状態に注意し、管理する。 5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する。 事後学習を必ず行うこと。			
4. 使用教材(テキスト等)			
動物看護実習テキスト その他			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
出欠席数10% 授業態度(積極性等)20% 課題(報告書等)提出状況と学修成果20% 中間・期末試験			
6. その他			

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を活かし、高齢動物への身体的精神的援助、猫の保定法と管理、エキゾチックアニマルの特鋼をふまえた診療補助について指導する

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	福澤 北村	
科目名	動物適正飼養学2 (適正飼養指導論)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物看護師として、適正飼養の理解にとどまらず、飼い主へ災害危機管理の適切な指導ができる。愛玩動物看護師として犬の・猫の引き取りや動物愛護センターの活動などについて見識を深め動物愛護管理行政に携わることが出来るようになる。				
◆概要	愛玩動物看護師として、獣医療行為のみに限らず適正な飼養の指導から災害時の非常時における役割や愛護管理行政における総合的な関わりについて学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	適正飼養の推進 問題行動予防について				
第2週	適正飼養の推進 問題行動予防について (指導事項・方法)				
第3週	災害危機管理と支援 同行避難の重要性				
第4週	災害危機管理と支援 災害時の備え				
第5週	災害危機管理と支援 災害時の備え				
第6週	災害危機管理と支援 愛玩動物看護師の役割				
第7週	災害危機管理と支援 まとめ				
第8週	中間試験				
第9週	動物愛護管理行政 公衆衛生業務 動物愛護週間における役割				
第10週	動物愛護管理行政 動物の収容・処分状況について				
第11週	動物愛護管理行政 動物の事故について				
第12週	動物愛護管理行政 動物愛護推進委員・協議会・動物取扱責任者について				
第13週	動物愛護管理行政 まとめ				
第14週	指導論総復習				
第15週	指導論総復習				
第16週	指導論総復習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習を必ず行うこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10%					
6. その他					

動物看護師として動物に病院で勤務し、子犬・子猫などの幼齢動物の飼育管理、しつけ指導、高齢動物の飼養管理、リスク管理等について携わった経験を活かし、災害時における動物の保護と保護動物の管理、公衆衛生等について指導する

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	上條		
科目名	愛玩動物看護師業務2 (動物愛護・適正飼養実習)	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	3年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主との理想的な関係構築のため、学習理論に基づいた安全で受入れやすい方法を理解し、基本的動作のトレーニングを実行できるようになる。 また、人間社会における犬を取り巻く環境に対し、適切な飼養環境、必要な道具と扱い方、基本的なしつけ方法等、説明やアドバイスができるようになる。				
◆概要	犬の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	飼い主とのコミュニケーション 犬や品種の特徴について				
第2週	動物の適切な飼養方法(使用環境、散歩方法、基本的なしつけなど。)について				
第3週	法令に基づき遵守すべき対応について				
第4週	動物の飼養が困難となる飼い主への支援について				
第5週	動物の適切な飼養方法について				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	動物の適切な飼養方法について				
第11週					
第12週					
第13週					
第14週	動物愛護管理行政について				
第15週	動物愛護管理センターの活動について理解				
第16週					
第17週	期末テスト				
3. 履修上の注意					
<p>床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適切に扱うこと。 学外の実習もあるため、挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護コアテキスト5 実習テキスト 補助資料					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					

出席による評価 10% 授業への取り組み(課題提出・授業姿勢)40% 中間・期末試験 50%

講師:動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、飼い主とのコミュニケーション、飼育上遵守すべき法令、動物の愛護、それらの説明方法について指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條、福澤、本橋、得地、梶ヶ谷		
科目名	動物看護研究2	必修・選択	選択必修		
単位数	5単位	授業形態	研究・制作	年次	3年次
総授業数(予定)	75コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ペット業界に関する知識を深める。 中間試験(11月)に経過発表、期末試験(2月)に研究成果発表を行う。 社会人として必要となる「調べる」「研究する」「理解する」「伝える」スキルを身につける。				
◆概要	卒業論文の制作、パワーポイントを使用したのプレゼンテーションを実施する。 動物分野において、疑問や興味を持ったことに対して研究を行い、研究テーマの内容によって必要であれば制作物を作る。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	研究計画作成、序論作成				
第2週	序論・本論作成、研究・制作				
第3週	本論作成、研究・制作				
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	中間発表 研究・制作、本論作成				
第10週	本論作成、研究・制作				
第11週					
第12週					
第13週					
第14週	本論・結論作成				
第15週	卒業論文完成 発表用パワーポイント完成				
第16週	発表練習				
第17週	卒業研究・制作発表会				
3. 履修上の注意					
インターネット上の調査のみではなく、現地に赴き実際に自らの目で結果を確認するなど、より説得力のある結果が得られるよう調査方法を工夫する。 課題提出等の期限は遵守する。 研究の進行度合いにより、授業時間外の取り組みも必要となる場合がある。 前期期間中に研究テーマを1人1テーマ決定する。場合によってはグループ制の研究を行う可能性があるが、その場合のグループ編成は教員側が判断する。 研究テーマ決定締め切り9月15日(金)。期限までに教員の認定が出ない学生は、補講期間中に登校し、後期授業開始までに研究テーマを決定する。 必ず毎回の授業後に研究日誌を付け、研究課程の記録を行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					

出席による評価 20%、 授業態度(取り組み、課題提出) 30%、 論文発表(中間・期末) 50%

6. その他

- ・中間経過発表…11月中間試験週に実施
- ・研究成果発表…2月期末試験週に実施

動物看護師として、また獣医大教授として動物看護研究及び様々な研究に取り組んだ経験を活かし、動物看護業界に就職する学生に対し、研究方法や論文の記述法等について指導する

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條、福澤、本橋、得地		
科目名	愛玩動物看護師試験対策	必修・選択	選択必修		
単位数	4単位	授業形態	講義	年次	3年次
総授業数(予定)	68コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	これまで学習してきた内容を総復習し、理解を深めた上で愛玩動物看護師国家試験に合格する。就職後の実践力に繋がるよう知識の再構築を行う。				
◆概要	愛玩動物看護師国家試験の受験に向けて、試験対策を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第2週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第3週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第4週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第5週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第6週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第7週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第8週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第9週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第10週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第11週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第12週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第13週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第14週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第15週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第16週	愛玩動物看護師国家試験対策				
第17週	愛玩動物看護師国家試験対策				
3. 履修上の注意					
<p>必要に応じ(統一試験)過去問等を使用して対策を行う。 試験対策という意義だけではなく、就職後の糧となるような復習を行う。 授業後の復習を十分に行い、弱点の補強を行うことが重要となる。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物看護師問題集 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・出欠席数20%、授業態度(取り組み)40%、課題提出40%					
6. その他					

講師:動物病院における動物看護師としての実務経験を活かし、愛玩動物看護師の資格を修得するにあたり求められる技能、知識について指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條
科目名	愛玩動物看護総合実習Ⅲ	必修・選択	必修
単位数	3単位	授業形態	実習
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	学外
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を築く上で必要な技術や能力を習得する。 就職学年であることを意識し、必須の知識や技術を再確認、必要に応じ実践する。 これまでの学習を総合し、必要な場面で有効に活用する判断力と実践力を身につける。		
◆概要	動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物院内での動物看護師の実際の業務や、獣医師・動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	学外実習		
第2週	学外実習		
第3週	学外実習		
第4週	学外実習		
第5週	学外実習		
第6週	学外実習		
第7週	学外実習		
第8週	学外実習		
第9週	学外実習		
第10週	学外実習		
第11週	学外実習		
第12週	学外実習		
第13週	学外実習		
第14週	学外実習		
第15週	学外実習		
第16週	学外実習		
第17週	学外実習		
3. 履修上の注意			
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 看護動物の状態・状況への配慮が必要。 常に動物の状態に注意し、管理する。 5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する。			
4. 使用教材(テキスト等)			

実習関連書類、動物看護実習テキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題(報告書等)提出状況と学修成果50% 実習先からの評定書30%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験

実習受け入れの経験を活かし、実習に対する姿勢、実習態度、実習内容、成果報告等について指導する

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條		
科目名	総合演習3	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	3
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。